報道関係各位

2012年1月

江崎グリコ株式会社

全国の女子中・高・大学生・20代OL400人と30・40代の母親・父親400人に聞く「バレンタイン事情2012」調査

今年のバレンタインは

友達や家族など大切な人に想いを伝える“絆記念日”

友情を確認し合う「友チョコ（69.5％）」や、家族へ感謝の気持ちを伝える「ファミチョコ（70.9％）」が人気

友チョコもファミチョコも主流はデコチョコ　小学生にも友チョコ＆デコチョコが拡大

今年はパパも一緒に“ファミチョコ”！バレンタインデーは家族の絆を深める日に
家族だけでなく身近な人にも「感謝を伝える日」

今年は、昨年より「人とのつながりの大切さを意識」（80.2%）し、「家族との絆が強まった」（66.6%）日本人。
今年のバレンタインデーに、感謝をこめて家族でチョコなどを贈り合うことに9割が「賛成」（92.2%）。
家族でチョコを贈り合いたい（70.9%）意向は7割と高く、予算はひとりあたり815.7円と高め。

パパのバレンタイン　いちばんうれしいのは娘からの“パパチョコ”

パパがチョコをもらっていちばんうれしいのは、妻からのダーリンチョコ（29.4%）より、娘からのパパチョコ（61.7%）。
娘たちも2人に1人はパパチョコを贈る予定（46.5%）で、パパも安心。
友達同士で贈り合う「友チョコ」には好意的（66.0%）だが、彼氏にチョコをあげるのはちょっと「悲しい」（41.5%）。

ママのバレンタイン　子どもと一緒に作って夫にあげる家族の絆作りの日
あげる相手は去年同様「夫」がトップ。95.5％が夫にチョコをあげる予定

ママがチョコをあげるのは去年同様「夫」がトップ。ダーリンチョコに込める「感謝の気持ち」（83.2%）。
ママたちのチョコは、市販のチョコをアレンジしたデコチョコ（49.5%）がいちばん人気。
子どもと一緒に材料を買って（64.5%）、子どもにデコを相談して（61.5%）、一緒に作りたい（69.5%）。

女子の友チョコは今年も健在。小学生にも浸透中！友チョコは400円程度が主流

今年も、「彼氏」（33.3%）や「告白したい男性」（12.3%）より、「女友達」（69.5%）に贈りたい。
中学生は97.0%が2012年も友チョコを予定し、平均13.3人の女友達に贈る計画。友チョコ単価はプチプライスがお約束。
小学生でも7割が「女の子の友達」（70.9%）に友チョコをあげる予定で、小学生にも友チョコ浸透中。

バレンタイン・チョコ、今年も主流はデコチョコ

ファミチョコとしても、友チョコとしても、市販のチョコをアレンジしたデコチョコが人気。
中学生80.0%、高校生73.0%が今年もデコチョコ。小学生では友チョコの94.3%がデコチョコ。
デコチョコは、友チョコだけでなく「家族に想いを伝えるのに効果的」（76.1%）なアレンジ方法。

「バレンタイン事情2012」 調査目的と調査概要

2月14日はバレンタインデー。かつては「女性から男性に告白する日」でしたが、最近は、彼氏への本命チョコよりも女友達との「友チョコ」が重視されており、日頃の感謝の気持ちをチョコに託し、お互いにチョコを交換することが一般的となっているようです。2011年の震災をきっかけに人と人との絆が大事にされる今、感謝の気持ちを示すバレンタインデーにはどんな変化が現れているのでしょうか。友達関係だけでなく家族も含めたバレンタインデー事情を探ってみます。

■実施時期　2011年12月3日（土）～12月4日（日）

■調査手法　インターネット調査

■調査対象　全国の10代～20代の未婚女性400人と小中学生の女の子を持つ父親・母親各200人 **【計800人】**

中学生（13歳～15歳）…100人　高校生（16歳～18歳）…100人
大学生（19歳～22歳）…100人　OL（23歳～29歳）…100人　} 400人

※2011年のバレンタインデーにチョコをあげ、2012年のバレンタインデーもチョコをあげる予定の未婚女性

小学生か中学生の女の子を持つ母親（30歳～39歳100人／ 40歳～49歳100人）…200人
※自分、娘双方が2011年のバレンタインデーにチョコをあげ、2012年のバレンタインデーもチョコをあげる予定の既婚女性

小学生か中学生の女の子を持つ父親（30歳～39歳100人／ 40歳～49歳100名）…200人
※家族の誰かが2011年にバレンタインを実施し、今年も実施するであろう家庭の既婚男性

「バレンタイン事情2012」 総括

■2012年のバレンタインデー、チョコをあげる予定は12.0人で去年（13.3人）よりやや少なくなりますが、総予算は3,689.2円と去年（3,581.5円）よりやや高くなっています。チョコをあげる予定の相手は「女友達」（69.5%）が今年もトップ。2位は「父親」（46.5%）へのパパチョコで、「彼氏」（33.3%）や「告白したい男性」（12.3%）より高く、娘の2人に1人はパパにチョコをあげる予定です。チョコ予算をみると、「告白したい男性」への告白チョコは53.7円安（去年917.0円→今年863.3円）、「彼氏」への本命チョコは16.5円安（去年1,804.3円→今年1,787.8円）と恋愛チョコは予算減に対し、男友達へのメンズ友チョコ（去年425.9円→今年528.4円 ＋102.5円）、義理チョコ（去年493.6円→今年568.3円 ＋74.7円）、パパチョコ（去年567.8円→今年630.7円 ＋62.9円）は予算増と、バレンタインにも事業仕分けが行われたようです。あげる予定のチョコのタイプは、去年同様、スーパーやコンビニなどで販売している市販のチョコ菓子を自分らしくアレンジした“デコチョコ”（61.5%）が人気です。

■今年も人気ナンバー1の「友チョコ」ですが、中学生では97.0%、高校生では89.0%が実践予定で、中学生は13.3人へ、高校生は10.0人に友チョコをあげる予定です。1人にかける予算は中学生486.6円、高校生319.2円となり、もらいたいチョコの金額中学生446.2円、高校生373.0円とほぼ同額で、友チョコは単価が安いプチプライスがルールのようです。中高生ではすっかり定着した友チョコですが、小学生の間にも浸透しており、「女の子の友達」にチョコをあげる小学生は70.9%にも上り（ちなみに1位は父親78.4%）、あげるチョコはひと手間かけたデコチョコ（94.3%）が人気です。

■ママたちのバレンタインデーは、去年に続き「夫」がトップで、95.5%が夫へダーリンチョコをあげる予定です。ダーリンチョコに込める気持ちは「ありがとう・感謝の気持ち」（83.2%）が最も多くなっています。一方パパたちがチョコをもらっていちばんうれしい相手は、「妻」（29.4%）ではなく「娘」（61.7%）からのパパチョコで、パパの4人に3人は「妻より娘の方がうれしい」（75.0%）と答えています。

■去年の震災後、8割が「人とのつながりを意識」（80.2%）するようになり、7割が「家族との絆が強まった」（66.6%）と答えています。そんな気持ちの変化も影響するのか、9割が「バレンタインデーをきっかけに家族に感謝の気持ちを伝えたい」（92.2%）と考え、7割が「バレンタインデーに家族でチョコの贈り合いをする」（70.9%）予定で、「デコチョコは家族に想いを伝えるのに効果的」（76.1%）と答えています。また、これからのバレンタインデーは、「家族など身近な人に感謝の気持ちを伝える日」（48.3%）、「家族との絆を深める日」（35.0%）との意見が多く、気持ちをチョコというカタチに託して伝え合う記念日になっていくようです。

「バレンタイン事情2012」調査結果一覧

Ⅰ.2011年　去年のバレンタイン実績　P3

- 去年（2011年）のバレンタインデー。10代・20代独身女性は1人平均13.3人にチョコをあげ、そのうち「友チョコ」は10.3人へ。
  「彼氏」（30.8%）や「告白したい男性」（12.5%）より、「女友達」（73.5%）への友チョコを重視。
- チョコ出費総額は3,581.5円。1人あたり予算は、豪華な本命チョコ1,804.3円に対し、友チョコ391.6円はリーズナブル。

チョコのタイプは、市販のチョコ菓子をベースに自分らしくアレンジした“デコチョコ”（76.0%）が主流。

- バレンタイン・チョコにいちばん気持ちをこめるのは、「彼氏」（29.5%）より「女友達」（38.3%）。
- イマドキのバレンタインデー、チョコをあげるだけでなく、もらう日。1人平均9.8人の女友達から友チョコをもらう。
- バレンタイン・チョコの贈り合い（愛）は女子同士の新しいギフト習慣。中学生は100%、高校生は95.7%が実践。

Ⅱ.2012年　今年のバレンタイン計画　P8

- 今年（2012年）のバレンタインデー。1人平均12.0人へチョコをあげ、今年も友チョコ（69.5%）がいちばん大事。
  次に人気なのがパパチョコ（46.5%）で、彼氏への本命チョコ（33.3%）より実践度高め。
- チョコ出費総額は3,698.2円。本命チョコ、告白チョコは予算減。メンズ友チョコ、義理チョコ、パパチョコは予算増。
  女子中学生は1カ月のお小遣い（2,265.0円）よりもチョコ出費（3,199.9円）が高。それだけ大事なビッグイベントに。

Ⅲ.2012年　友チョコの実態　P10

- バレンタインデーの友チョコをもらいたい相手。中学生では96.0%が「女友達」で、12.4人からもらいたいと希望。
- 友チョコ価格、中学生446.2円、高校生373.0円とプチプライス。今年は「感謝の気持ちを伝えたい」傾向がより強く。
- 「友チョコ」習慣の低年齢化？　小学生の70.9%が「女の子の友達」にデコチョコをあげる予定。

Ⅳ.2012年　親世代のバレンタイン事情　ママ編・パパ編　P13

- ママのバレンタイン。今年も「夫」（95.5%）への“ダーリンチョコ”がいちばん！「感謝の気持ち」をデコチョコに託して。
- パパのバレンタイン。いちばんうれしいのは娘からの「パパチョコ」（61.7%）、妻（29.4%）からもらうより断然うれしい。
  家族以外からもらったチョコ、「妻に隠さない」パパが84.5%。外でのモテぶりをアピールしたい（?!）

Ⅴ.2012年　気持ちを託す、絆を結ぶバレンタインデー　P15

- 震災後、「人のつながりの大切さを強く意識」（80.2%）。子ども世代は「親」、親世代は「子ども」の大切さを実感。
- バレンタイン・チョコで「家族に感謝の気持ちを伝えたい」（92.2%）。気持ちを伝えるのに効果的なデコチョコ（76.1%）。
- これからのバレンタインデーは、「家族や身近な人に感謝の気持ちを伝える日」（48.3%）へと変化。

Ⅵ.心理学の専門家　谷口淳一先生からのコメント　P18

- 震災によって気づかされた日常のありがたさ　　チョコをもらうことの意味：デコチョコが伝える意味　　など

[参考情報]いまどきのバレンタイン・チョコ分類　P20

Ⅰ.2011年バレンタイン実績　チョコをあげた相手と人数

去年 2011

バレンタインデーは、告白よりも女友達の方が大事な日

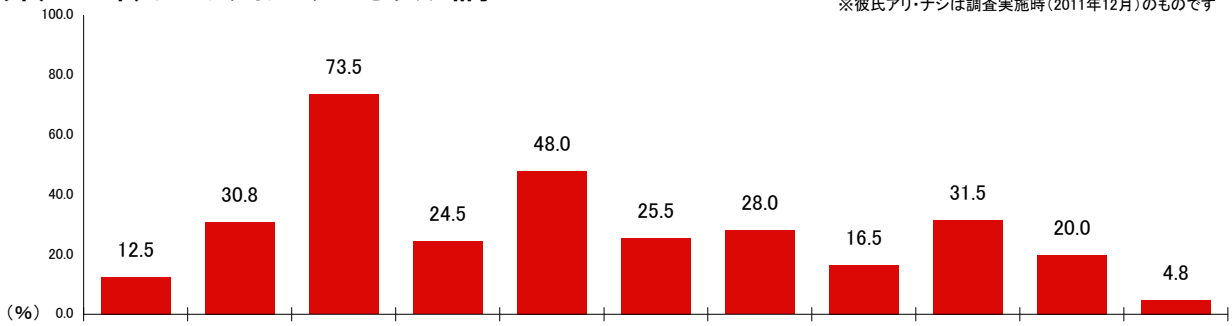
10代・20代の女性にとってバレンタインデーは、「彼氏」(30.8%)や「告白したい男性」(12.5%)より、「女友達」(73.5%)にチョコレートを贈る日。あげた人数は1人平均13.3人、友チョコは10.3人へ。

去年(2011年2月)のバレンタインデーにチョコをあげた中学生からOLまでの10代・20代400名の女性に、あげた相手を聞いたところ、「彼氏」(30.8%)や「告白したい男性」(12.5%)ではなく「女友達」(73.5%)が圧倒的に多くなっています。OL層でこそ唯一「彼氏」(57.0%)がトップですが、他の世代では「女友達」が圧勝！　中学生96.0%、高校生95.0%とほとんどの中高生が女友達にチョコをあげる"友チョコ"を実践していました。バレンタインデー本来の「告白したい男性」にチョコをあげた女性はわずか12.5%で、「義理チョコ対象の男性」(31.5%)の半数以下。バレンタインデーといえば、女性が男性へチョコを渡して愛を告白する日でしたが、今は女友達にチョコをあげる"友チョコ"の日へと変化しています[グラフ1]。

また、チョコをあげた総人数は1人平均13.3人ですが、こちらもトップは「女友達」。1人平均10.3人の女友達に友チョコを渡しています。中でも中学生は13.7人に友チョコを渡しており、友チョコ人数が最も多くなっています[グラフ2]。

グラフ1)去年(2011年)のバレンタインにチョコをあげた相手

※彼氏アリ・ナシは調査実施時(2011年12月)のものです

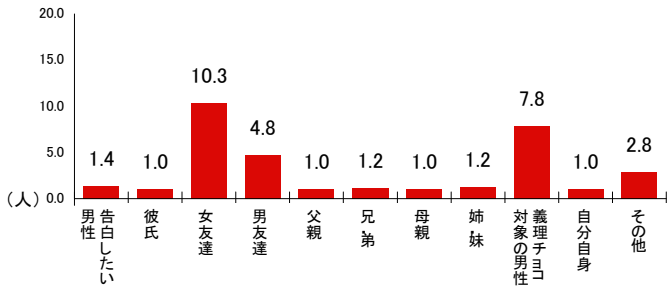


	告白したい男性	彼氏	女友達	男友達	父親	兄・弟	母親	姉・妹	義理チョコ対象の男性	自分自身	その他
■独身女性計(n=400)	12.5	30.8	73.5	24.5	48.0	25.5	28.0	16.5	31.5	20.0	4.8
中学生(n=100)	18.0	5.0	96.0	24.0	49.0	29.0	30.0	22.0	22.0	23.0	9.0
高校生(n=100)	12.0	16.0	95.0	30.0	58.0	32.0	43.0	23.0	28.0	24.0	3.0
大学生(n=100)	8.0	45.0	70.0	26.0	45.0	17.0	23.0	16.0	22.0	20.0	3.0
OL(n=100)	12.0	57.0	33.0	18.0	40.0	24.0	16.0	5.0	54.0	13.0	4.0
彼氏アリ(n=154)	13.6	71.4	53.9	27.9	43.5	22.1	18.2	11.0	35.1	10.4	4.5
彼氏ナシ(n=246)	11.8	5.3	85.8	22.4	50.8	27.6	34.1	19.9	29.3	26.0	4.9

グラフ2)去年(2011年)のバレンタインにチョコをあげた人数

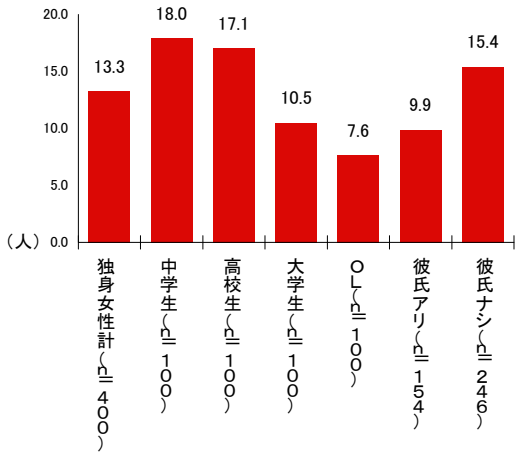
●あげた相手別人数

※各相手にチョコをあげた人(回答数)の平均



	告白したい男性	彼氏	女友達	男友達	父親	兄弟	母親	姉妹	義理チョコ対象の男性	自分自身	その他
■独身女性計	1.4	1.0	10.3	4.8	1.0	1.2	1.0	1.2	7.8	1.0	2.8
中学生	1.0	1.0	13.7	4.8	1.0	1.1	1.0	1.3	6.5	1.0	4.3
高校生	2.4	1.0	11.2	5.4	1.0	1.3	1.0	1.2	8.6	1.0	1.7
大学生	1.0	1.0	7.8	5.1	1.0	1.2	1.0	1.2	8.5	1.0	1.0
OL	1.1	1.0	3.5	3.2	1.0	1.1	1.0	1.2	7.6	1.0	1.8
彼氏アリ	1.0	1.0	7.8	4.3	1.0	1.4	1.0	1.3	6.7	1.0	2.0
彼氏ナシ	1.6	1.0	11.3	5.1	1.0	1.1	1.0	1.2	8.6	1.0	3.3

●対象者別あげた総人数



※彼氏、自分自身は、あらかじめ1.0人としてカウント
※彼氏アリ・ナシは調査実施時(2011年12月)のものです

Ⅰ.2011年バレンタイン実績　チョコにかけた金額とあげた種類

去年 2011

去年のバレンタイン、チョコレート出費総額は平均で3,581.5円

一点豪華な本命チョコ（1,804.3円）、同性女子にはリーズナブル（友チョコ391.6円　姉妹チョコ304.6円）に。

市販のチョコ菓子などを自分らしくアレンジした“デコチョコ”（76.0％）が主流。

中高生では9割がデコチョコ派に。

10代・20代の独身女性が去年のバレンタイン・チョコにかけた金額は、総額で3,581.5円で、最も高いのは「彼氏」（1,804.3円）への本命チョコです。「女友達」への友チョコ（391.6円）や「姉・妹」への姉妹チョコ（304.6円）など同世代女子にあげるチョコはリーズナブルな傾向です［グラフ3］。

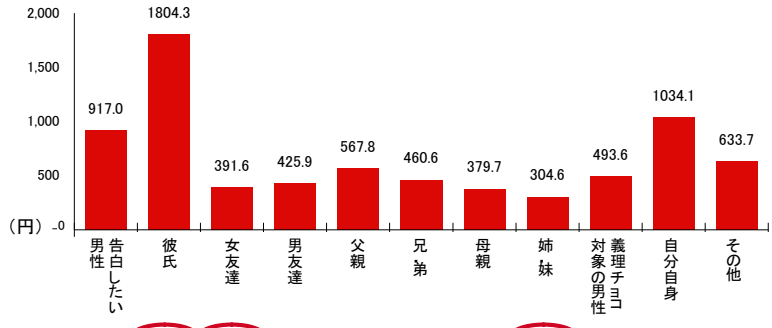
あげたチョコのタイプは「スーパーやコンビニのチョコ菓子」（12.0%）や「バレンタイン用チョコ」（18.8%）、「チョコレート専門店のチョコ」（17.8%）など市販のチョコをそのまま渡す人は少なく、スーパーやコンビニエンスストアなどで販売している市販のチョコ菓子などを自分らしくアレンジするデコチョコが主流で、4人に3人（76.0%）がデコチョコ派です。特に、中学生では93.0%、高校生では91.0%と、中高生の9割以上がバレンタイン・チョコは“デコチョコ派”です［グラフ4］。

デコチョコとは、スーパーやコンビニエンスストアなどで販売している市販のチョコ菓子などを自分らしくアレンジしてデコレーションしたもの。

グラフ3）去年（2011年）のバレンタイン・チョコにかけた一人あたりの金額と総額

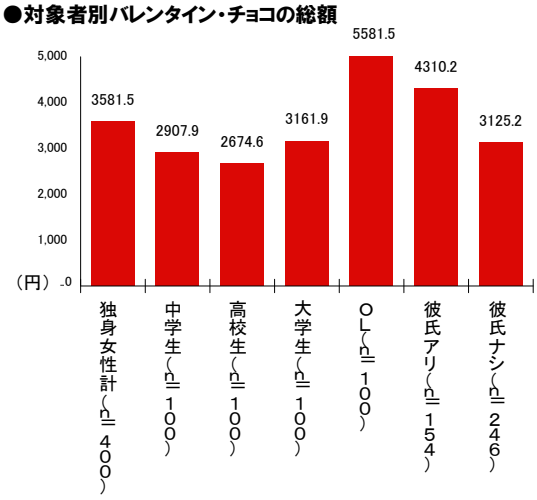
●あげた相手別一人あたりのバレンタイン・チョコの金額

※各相手にチョコをあげた人（回答数）の平均



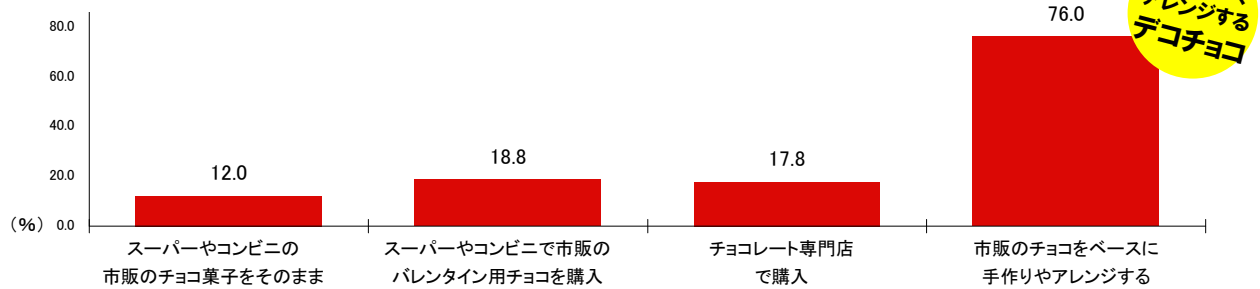
	告白したい男性	彼氏	女友達	男友達	父親	兄弟	母親	姉妹	義理チョコ対象の男性	自分自身	その他
■独身女性計	917.0	1804.3	391.6	425.9	567.8	460.6	379.7	304.6	493.6	1034.1	633.7
中学生	594.4	900.0	413.7	269.2	230.5	237.1	375.0	380.0	531.8	206.5	543.3
高校生	579.2	1251.6	272.2	266.0	308.6	296.6	215.8	158.3	261.3	224.1	216.7
大学生	775.0	1571.1	405.0	407.7	760.4	477.6	352.2	312.5	337.3	495.0	1000.0
OL	1833.3	2222.8	642.4	927.8	1140.0	937.5	868.8	620.0	662.0	4823.1	875.0
彼氏アリ	1371.4	1781.1	497.7	443.0	813.1	655.9	673.2	609.4	554.6	1059.4	737.1
彼氏ナシ	587.9	2000.0	349.8	412.5	436.3	363.0	281.9	198.8	447.7	1027.8	573.3

●対象者別バレンタイン・チョコの総額



グラフ4）去年（2011年）あげたバレンタイン・チョコのタイプ

自分らしくアレンジするデコチョコ



	スーパーやコンビニの市販のチョコ菓子をそのまま	スーパーやコンビニで市販のバレンタイン用チョコを購入	チョコレート専門店で購入	市販のチョコをベースに手作りやアレンジする
■独身女性計（n=400）	12.0	18.8	17.8	76.0
中学生（n=100）	5.0	7.0	3.0	93.0
高校生（n=100）	10.0	9.0	6.0	91.0
大学生（n=100）	21.0	27.0	14.0	70.0
OL（n=100）	12.0	32.0	48.0	50.0

Ⅰ.2011年バレンタイン実績　いちばん気持ちをこめた相手

去年 2011

チョコにいちばん気持ちをこめた相手、第1位は「女友達」

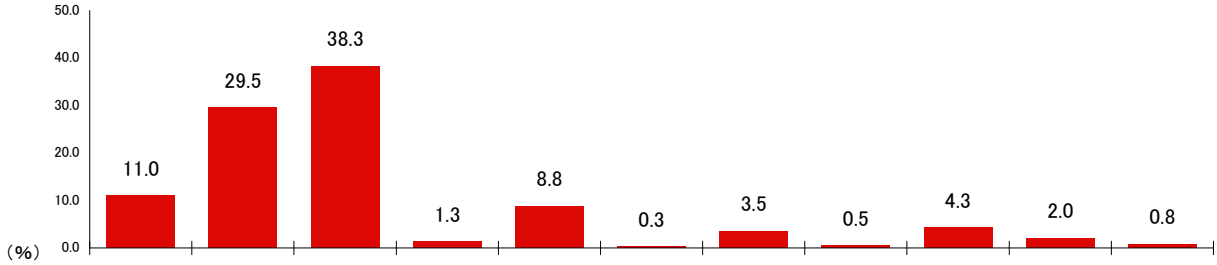
恋活より友活優先！

バレンタインデーは「彼氏」(29.5%)や「告白したい男性」(11.0%)より、「女友達」(38.3%)に気持ちを込めて。
彼氏のいない女子の場合、告白チョコ(10.6%)よりパパチョコ(12.2%)をわずかながらも優先します。

10代・20代の独身女性に、去年のバレンタインで誰へのチョコにいちばん気持ちを込めたかを聞くと、1位に選ばれたのは「女友達」(38.3%)への友チョコで、「彼氏」(29.5%)や告白したい男性(11.0%)への本命チョコより気合いがはいっています。中高生では約6割が「女友達」(中学生60.0%／高校生57.0%)へのチョコに最も気持ちを込めたと答えており、ティーンにとってのバレンタインデーは彼氏や告白などの恋愛モードより友達との友情モードが重視されていることがわかります。

これを彼氏の有無別にみると、彼氏のいる女性では「彼氏」(68.2%)への本命チョコがいちばんですが、彼氏のいない女性の場合、「告白したい男性」(10.6%)ではなく「女友達」(56.5%)がいちばんとなり、恋活より友活が優先されています。また、「父親」へのチョコに気持ちを込める割合は、彼氏のいる女性(3.2%)に比べると彼氏のいない女性(12.2%)の方がぐっと高く、告白チョコ(10.6%)よりパパチョコ(12.2%)の方がわずかながらも優先され、お父さんにとってはちょっとうれしい結果となっています[グラフ5]。

グラフ5)去年(2011年)のバレンタインでいちばん気持ちをこめた相手



	告白したい男性	彼氏	女友達	男友達	父親	兄・弟	母親	姉・妹	義理チョコ対象の男性	自分自身	その他
■独身女性計(n=400)	11.0	29.5	38.3	1.3	8.8	0.3	3.5	0.5	4.3	2.0	0.8
中学生(n=100)	18.0	5.0	60.0	0.0	7.0	1.0	4.0	1.0	1.0	1.0	2.0
高校生(n=100)	8.0	16.0	57.0	2.0	6.0	0.0	4.0	1.0	2.0	4.0	0.0
大学生(n=100)	7.0	44.0	28.0	0.0	16.0	0.0	3.0	0.0	1.0	1.0	0.0
OL(n=100)	11.0	53.0	8.0	3.0	6.0	0.0	3.0	0.0	13.0	2.0	1.0
彼氏アリ(n=154)	11.7	68.2	9.1	1.3	3.2	0.6	1.3	0.0	2.6	1.3	0.6
彼氏ナシ(n=246)	10.6	5.3	56.5	1.2	12.2	0.0	4.9	0.8	5.3	2.4	0.8

Ⅰ.2011年バレンタイン実績　女性がもらうチョコ

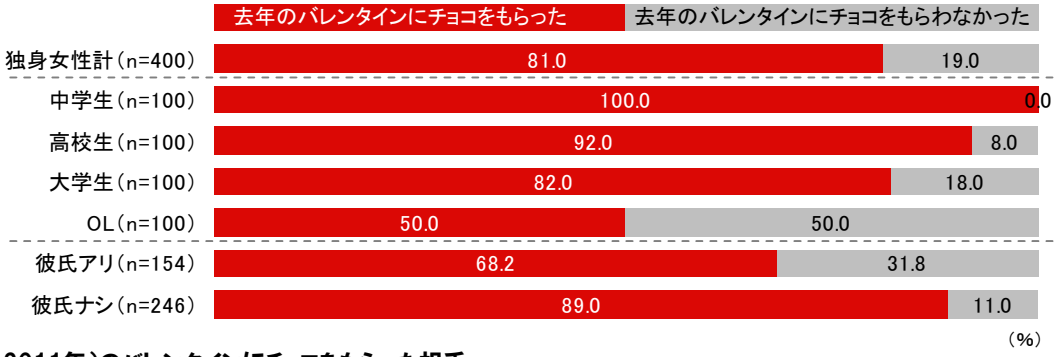
去年 2011

バレンタインデーは、チョコをあげるだけでなく、女性ももらう日に

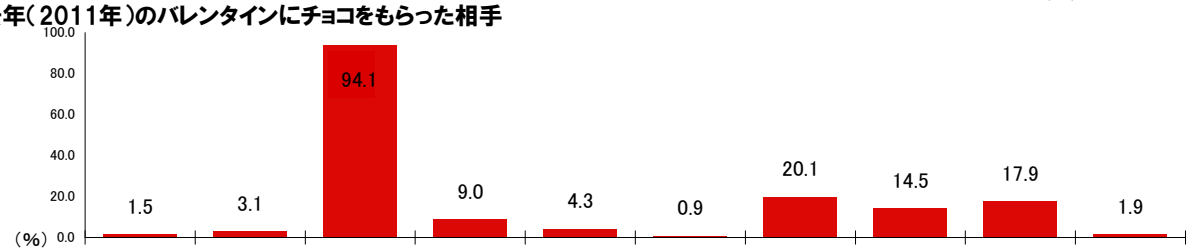
チョコをもらう相手もやっぱり「女友達」(94.1%)。1人平均9.8人の女友達から友チョコをもらっています。

本命チョコや告白チョコより、友チョコが主流となっている昨今のバレンタインデー。10代・20代の独身女性に去年バレンタインデーにチョコをもらったか聞いてみると、全体平均で約8割(81.0%)が、中学生では全員がチョコをもらっています[グラフ6]。また、もらう相手は「女友達」(94.1%)が圧倒的で[グラフ7]、1人平均9.8人の女友達から友チョコをもらっています。もらった人数は平均で10.8人、中学生が最も多く14.8人からもらっています[グラフ8]。

グラフ6)去年(2011年)のバレンタインでチョコをもらったか



グラフ7)去年(2011年)のバレンタインにチョコをもらった相手

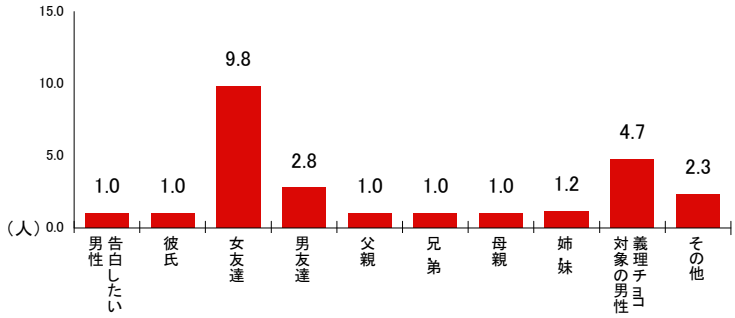


	告白したい男性	彼氏	女友達	男友達	父親	兄・弟	母親	姉・妹	義理チョコ対象の男性	その他
独身女性計(n=324)	1.5	3.1	94.1	9.0	4.3	0.9	20.1	14.5	17.9	1.9
中学生(n=100)	3.0	0.0	99.0	11.0	9.0	3.0	23.0	18.0	14.0	4.0
高校生(n=92)	0.0	3.3	98.9	12.0	3.3	0.0	19.6	13.0	23.9	1.1
大学生(n=82)	2.4	4.9	96.3	7.3	2.4	0.0	20.7	15.9	12.2	1.2
OL(n=50)	0.0	6.0	72.0	2.0	0.0	0.0	14.0	8.0	24.0	0.0
彼氏アリ(n=105)	1.9	8.6	90.5	9.5	1.9	0.0	16.2	12.4	21.9	2.9
彼氏ナシ(n=219)	1.4	0.5	95.9	8.7	5.5	1.4	21.9	15.5	16.0	1.4

グラフ8)去年(2011年)のバレンタインにチョコをもらった人数

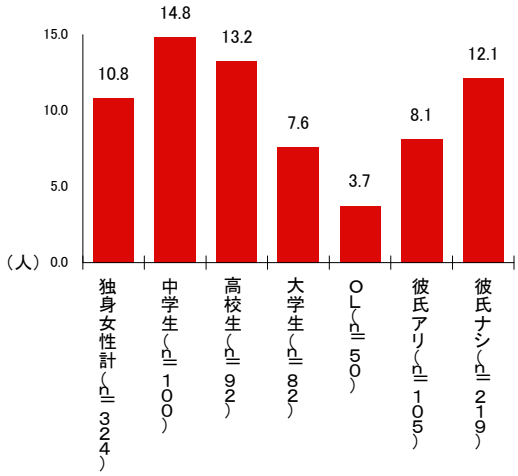
●もらった相手別人数

※各相手にチョコをもらった人(回答があった人数)の平均



	告白したい男性	彼氏	女友達	男友達	父親	兄弟	母親	姉妹	義理チョコ対象の男性	その他
独身女性計	1.0	1.0	9.8	2.8	1.0	1.0	1.0	1.2	4.7	2.3
中学生	1.0	0.0	13.3	2.1	1.0	1.0	1.0	1.3	4.9	2.5
高校生	0.0	1.0	11.4	2.9	1.0	0.0	1.0	1.2	4.8	1.0
大学生	1.0	1.0	6.6	4.2	1.0	0.0	1.0	1.1	4.0	3.0
OL	0.0	1.0	3.1	1.0	0.0	0.0	1.0	1.0	5.1	0.0
彼氏アリ	1.0	1.0	6.7	2.3	1.0	0.0	1.0	1.2	5.8	3.7
彼氏ナシ	1.0	1.0	11.2	3.1	1.0	1.0	1.0	1.1	4.1	1.0

●対象者別もらった総人数



Ⅰ.2011年バレンタイン実績　あげて・もらうチョコの贈り合い

去年 2011

バレンタインデーはデコチョコを贈り合う
女子同士の新しいギフト習慣

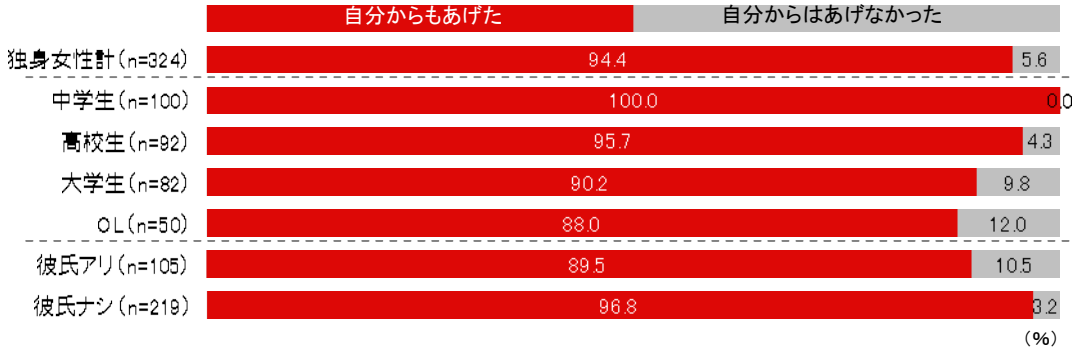
あげてもらう、バレンタイン・チョコの贈り合い（愛）は、女子中高生の9割が実践。

10代・20代の独身女性で、チョコをもらった女性がもらった相手にチョコをあげるお返しチョコの習慣は94.4%とかなり高く、中学生では100%と全員がチョコのお返しを実践しています［グラフ9］。

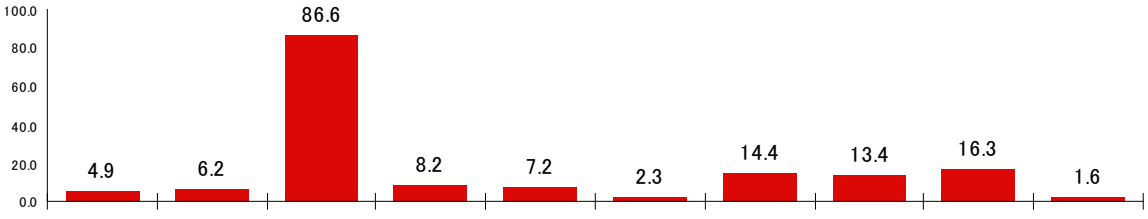
また、チョコをお互いに贈り合う“贈り合い（愛）”の相手は「女友達」（86.6%）が圧倒的に多く、中学生では96.0%、高校生では96.6%が女友達同士のチョコの贈り合いを実践しています［グラフ10］。

もらったチョコはあげたチョコと同様、スーパーやコンビニエンスストアなどで販売している市販のチョコ菓子などを自分らしくアレンジしたデコチョコ（71.9%）が主流で、中学生では88.0%がデコチョコです［グラフ11］。

グラフ9）去年（2011年）のバレンタインで、チョコをもらった人に自分からもチョコをあげたか

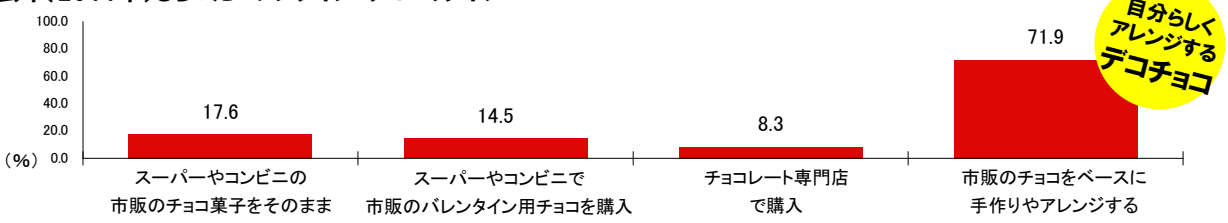


グラフ10）去年（2011年）のバレンタインで、チョコを贈り合った相手



	告白したい男性	彼氏	女友達	男友達	父親	兄・弟	母親	姉・妹	義理チョコ対象の男性	その他
■独身女性計（n=306）	4.9	6.2	86.6	8.2	7.2	2.3	14.4	13.4	16.3	1.6
中学生（n=100）	7.0	0.0	96.0	7.0	10.0	5.0	13.0	17.0	15.0	4.0
高校生（n=82）	2.3	3.4	96.6	12.5	5.7	0.0	15.9	13.6	21.6	0.0
大学生（n=74）	5.4	9.5	85.1	6.8	8.1	1.4	12.2	12.2	9.5	0.0
OL（n=44）	4.5	20.5	47.7	4.5	2.3	2.3	18.2	6.8	20.5	2.3
彼氏アリ（n=94）	6.4	19.1	73.4	7.4	4.3	1.1	11.7	10.6	18.1	3.2

グラフ11）去年（2011年）もらったバレンタイン・チョコのタイプ



	スーパーやコンビニの市販のチョコ菓子をそのまま	スーパーやコンビニで市販のバレンタイン用チョコを購入	チョコレート専門店で購入	市販のチョコをベースに手作りやアレンジする
■独身女性計（n=324）	17.6	14.5	8.3	71.9
中学生（n=100）	16.0	13.0	5.0	88.0
高校生（n=92）	15.2	8.7	5.4	76.1
大学生（n=82）	20.7	15.9	9.8	68.3
OL（n=50）	20.0	26.0	18.0	38.0

II.2012年バレンタイン計画　今年、チョコをあげる予定の相手と人数

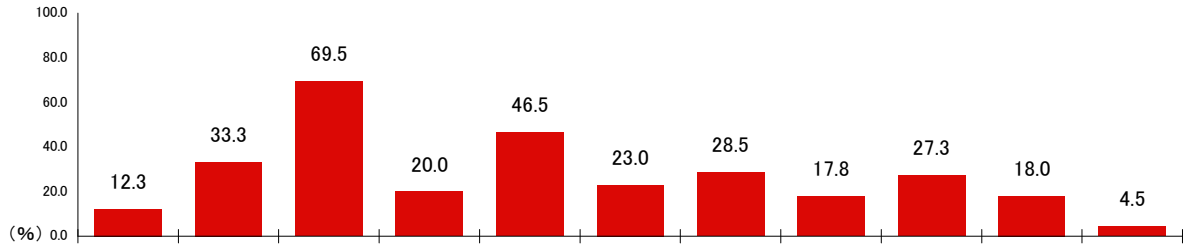
今年 2012

今年のバレンタインでチョコをあげる人
今年も友チョコ1位、パパチョコが2位

今年のバレンタインデーも「女友達」(69.5%)が最重要。1人平均10.1人の女友達へ友チョコをあげる予定。
実は「彼氏」(33.3%)や「告白したい男性」(12.3%)より人気が高い「パパ」(46.5%)。
娘の2人に1人はパパチョコを実践！

次に、10代・20代の独身女性に、今年(2012年2月)のバレンタインデーの計画について聞いてみました。
今年、チョコをあげる予定の相手はやはり「女友達」(69.5%)がトップで、中学生(97.0%)や高校生(89.0%)で特に高く、友チョコ習慣は一時のブームではなく、冬の風物詩として定着する模様です。2位に選ばれたのは「父親」(46.5%)で、「彼氏」(33.3%)や「告白したい男性」(12.3%)より高く、娘の2人に1人はパパにチョコをあげる予定です[グラフ12]。
また、チョコをあげる予定の総人数は平均で12.0人で、去年(13.3人　グラフ2参照)よりやや少なくなりますが、あげる相手は「女友達」がいちばん多く、1人平均10.1人と去年(10.3人)とほぼ同じ人数が予定されています[グラフ13]。

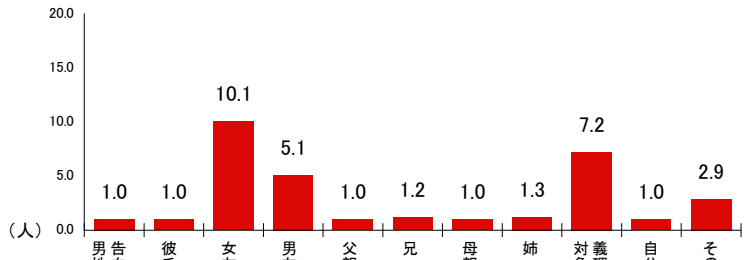
グラフ12)今年(2012年)のバレンタインにチョコをあげる予定の相手



	告白したい男性	彼氏	女友達	男友達	父親	兄・弟	母親	姉・妹	義理チョコ対象の男性	自分自身	その他
■独身女性計(n=400)	12.3	33.3	69.5	20.0	46.5	23.0	28.5	17.8	27.3	18.0	4.5
中学生(n=100)	19.0	10.0	97.0	22.0	46.0	26.0	35.0	25.0	23.0	17.0	8.0
高校生(n=100)	7.0	16.0	89.0	20.0	52.0	24.0	38.0	25.0	17.0	25.0	4.0
大学生(n=100)	12.0	48.0	63.0	24.0	42.0	18.0	23.0	16.0	20.0	16.0	3.0
OL(n=100)	11.0	59.0	29.0	14.0	46.0	24.0	18.0	5.0	49.0	14.0	3.0
彼氏アリ(n=154)	7.1	86.4	48.7	23.4	44.8	21.4	18.2	11.0	29.2	9.1	3.9
彼氏ナシ(n=246)	15.4	0.0	82.5	17.9	47.6	24.0	35.0	22.0	26.0	23.6	4.9

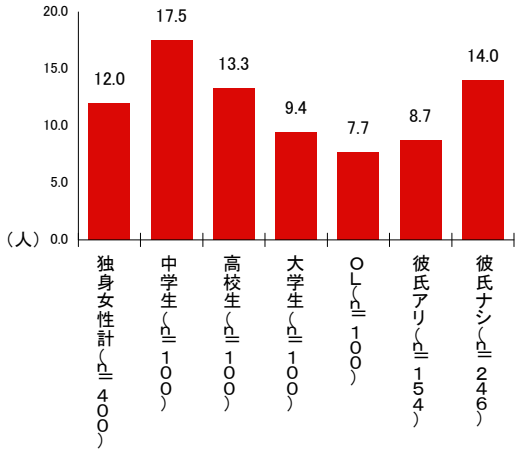
グラフ13)今年(2012年)のバレンタインにチョコをあげる予定の人数

●あげる予定の相手別人数
※各相手にチョコをあげる人(回答数)の平均



	告白したい男性	彼氏	女友達	男友達	父親	兄弟	母親	姉妹	義理チョコ対象の男性	自分自身	その他
■独身女性計	1.0	1.0	10.1	5.1	1.0	1.2	1.0	1.3	7.2	1.0	2.9
中学生	1.1	1.0	13.3	4.5	1.0	1.1	1.0	1.3	6.2	1.0	4.4
高校生	1.1	1.0	10.0	5.8	1.0	1.3	1.0	1.3	6.9	1.0	2.0
大学生	1.0	1.0	7.9	6.0	1.0	1.2	1.0	1.1	6.0	1.0	1.0
OL	1.0	1.0	4.3	3.6	1.0	1.1	1.0	1.6	8.3	1.0	2.0
彼氏アリ	1.0	1.0	7.3	4.2	1.0	1.3	1.0	1.3	6.8	1.0	2.7
彼氏ナシ	1.1	0.0	11.1	5.8	1.0	1.1	1.0	1.2	7.5	1.0	3.0

●対象者別あげる予定の総人数



II.2012年バレンタイン計画　今年、チョコにかける予算と種類

今年 2012

チョコレート出費総額は平均で3,698.2円。

チョコ事業仕分けで明暗か?!　減 本命チョコ　増 友チョコ

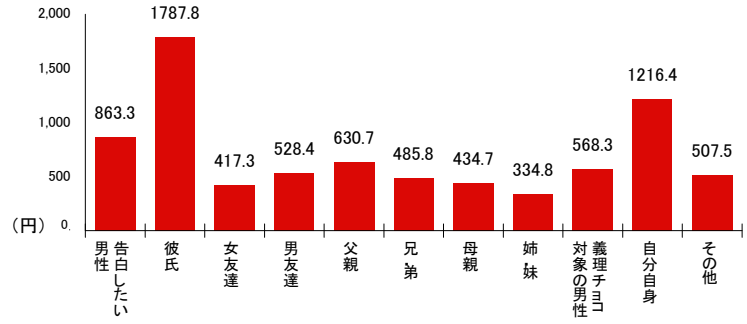
1カ月のお小遣い1,000円オーバーでも実行！ バレンタインは女子中学生にとってのビッグイベント。

チョコの事業仕分け　本命チョコ、告白チョコは予算減
友チョコ、メンズ友チョコ、義理チョコ、パパチョコは予算増。

10代・20代の独身女性が今年のバレンタイン・チョコにかける予定の金額は総額で3,698.2円となり、去年（3,581.5円　グラフ3参照）と比べ116.7円の増額です。これを1カ月に自由に使えるお金と比較すると、中学生の場合、月のお小遣いが2,265.0円に対し、バレンタインのチョコ出費は3,199.9円と1,000円近くも予算オーバー。それだけの赤字覚悟で臨むバレンタインは、彼女たちにとってのビッグイベントであることがわかります。相手別にみると、「告白したい男性」への告白チョコは53.7円安（去年917.0円→今年863.3円　−53.7円）、「彼氏」への本命チョコは16.5円安（去年1,804.3円→今年1,787.8円　−16.5円）と恋愛チョコは予算縮小に対し、友チョコ（去年391.6円→今年417.3円　＋25.7円）、男友達へのメンズ友チョコ（去年425.9円→今年528.4円　＋102.5円）、義理チョコ（去年493.6円→今年568.3円　＋74.7円）、パパチョコ（去年567.8円→今年630.7円　＋62.9円）は予算増[グラフ14]。あげる予定のチョコは去年同様、スーパーやコンビニエンスストアで販売している市販のチョコ菓子を自分らしくアレンジした“デコチョコ”（61.5%）が人気です[グラフ15]。

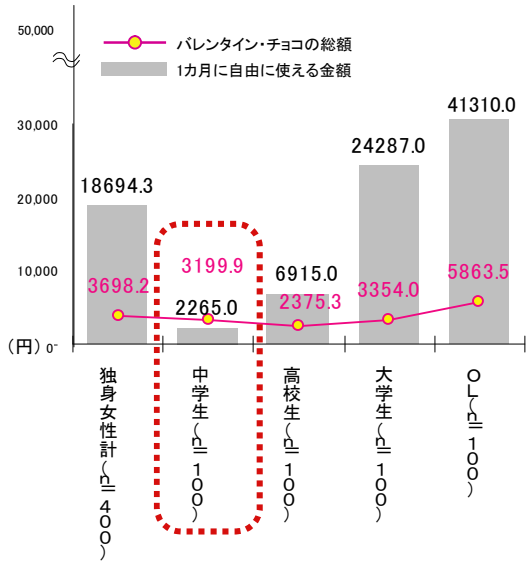
グラフ14）今年（2012年）のバレンタイン・チョコにかける予定の一人あたり金額と総額

●あげる予定の相手別一人あたりのバレンタイン・チョコの金額
※各相手にチョコをあげる予定の人（回答数）の平均

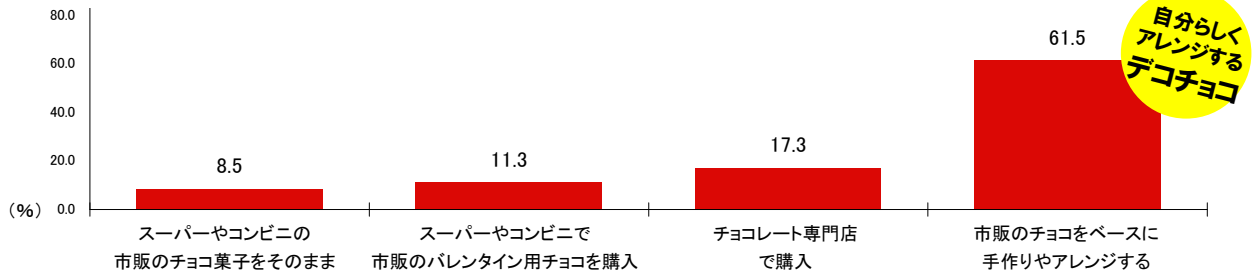


	男性 告白したい	彼氏	女友達	男友達	父親	兄弟	母親	姉妹	義理チョコ対象の男性	自分自身	その他
■独身女性計	863.3	1787.8	417.3	528.4	630.7	485.8	434.7	334.8	568.3	1216.4	507.5
中学生	513.2	650.0	486.6	520.0	265.5	251.3	400.3	406.4	620.9	794.1	560.0
高校生	464.3	1132.8	319.2	336.5	335.0	305.8	236.6	194.4	344.7	285.2	88.8
大学生	941.7	1732.3	410.3	443.8	820.7	456.7	467.4	346.9	325.0	490.6	1000.0
OL	1636.4	2203.4	501.7	960.7	1156.5	941.7	877.8	640.0	720.4	4221.4	433.3
彼氏アリ	1218.2	1787.8	501.7	675.0	897.8	660.0	726.8	634.1	639.6	1610.7	525.0
彼氏ナシ	760.5	0.0	386.1	408.4	473.1	388.4	339.6	240.6	518.1	1121.2	498.8

●バレンタイン・チョコの総額と1カ月に自由に使える金額比較



グラフ15）今年（2012年）あげる予定のバレンタインチョコのタイプ



	スーパーやコンビニの市販のチョコ菓子をそのまま	スーパーやコンビニで市販のバレンタイン用チョコを購入	チョコレート専門店で購入	市販のチョコをベースに手作りやアレンジする
■独身女性計（n=400）	8.5	11.3	17.3	61.5
中学生（n=100）	7.0	3.0	3.0	80.0
高校生（n=100）	7.0	5.0	4.0	73.0
大学生（n=100）	11.0	15.0	15.0	60.0
OL（n=100）	9.0	22.0	47.0	33.0

今年 2012

青春時代を彩る　女子同士の絆づくりに「なでしこの法則」？

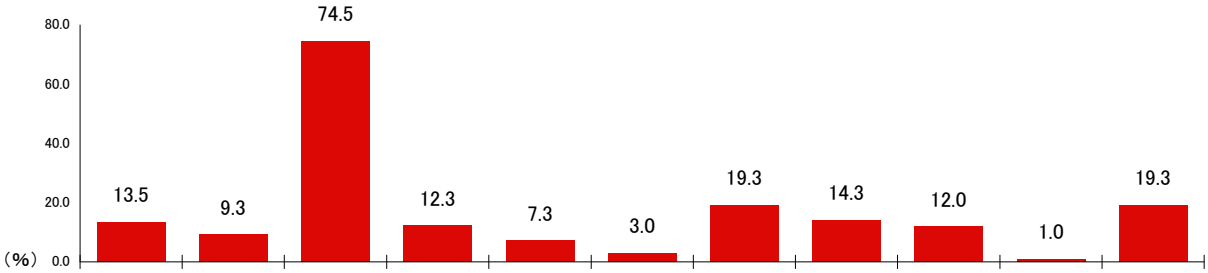
11人前後の女子同士でチョコを交換し合う、女友達との友チョコ習慣

バレンタインデーにチョコをもらいたい相手は、絶対「女友達」。

女子中高生を中心に、バレンタインのメインイベントになりつつある友チョコ。10代・20代の独身女性を対象にその実態について、詳しくみてみました。

まず、男女を問わずチョコをもらいたい相手を聞くと、やはり「女友達」（74.5%）がトップとなり、中学生（96.0%）や高校生（85.0%）では圧倒的に友チョコが重視されています［グラフ16］。また、チョコをもらいたい予定の総人数は**平均で10.1人**と去年もらった人（10.8人　グラフ8参照）とほぼ同じです。もらいたい相手は「女友達」（8.6人）がいちばん多く、特に、中学生が女友達からもらいたい人数は12.4人で、あげる人数（13.3人）や去年もらった人数（13.3人／グラフ8参照）とほぼ同数です［グラフ17］。**自分を含めて11人前後**の女友達とチョコの交換をしあう今年のバレンタインデー。**女子の結束力**で世界一を勝ち取ったサッカー日本女子代表にあやかった**「なでしこチョコ」**？なんかも注目されそうです。

グラフ16）今年（2012年）のバレンタインにチョコをもらいたい相手

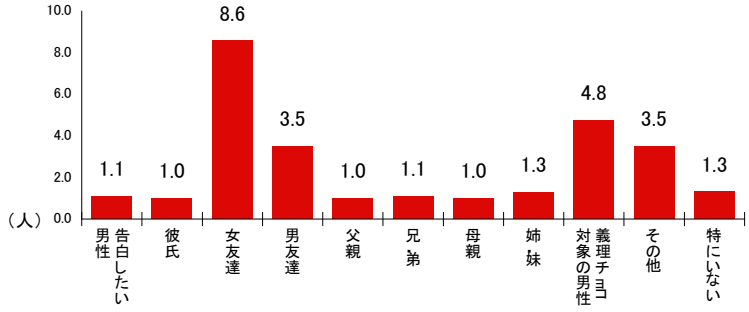


	告白したい男性	彼氏	女友達	男友達	父親	兄・弟	母親	姉・妹	義理チョコ対象の男性	その他	特にいない
■独身女性計（n=400）	13.5	9.3	74.5	12.3	7.3	3.0	19.3	14.3	12.0	1.0	19.3
中学生（n=100）	21.0	7.0	96.0	19.0	9.0	8.0	22.0	18.0	12.0	3.0	3.0
高校生（n=100）	16.0	11.0	85.0	17.0	13.0	3.0	28.0	19.0	17.0	0.0	9.0
大学生（n=100）	10.0	11.0	77.0	10.0	7.0	1.0	21.0	14.0	13.0	0.0	16.0
OL（n=100）	7.0	15.0	40.0	3.0	0.0	0.0	6.0	6.0	6.0	1.0	49.0
彼氏アリ（n=154）	5.8	24.0	62.3	11.0	2.6	0.6	12.3	9.7	12.3	1.9	27.3
彼氏ナシ（n=246）	18.3	0.0	82.1	13.0	10.2	4.5	23.6	17.1	11.8	0.4	14.2

グラフ17）今年（2012年）のバレンタインにチョコをもらいたい人数

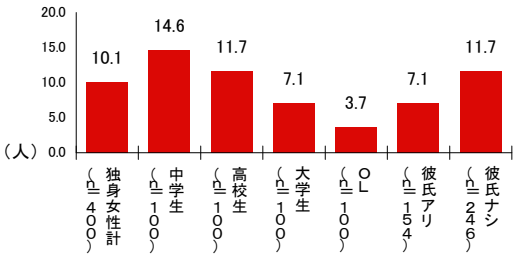
●もらいたい相手別人数

※各相手にチョコをもらいたい人（回答数）の平均

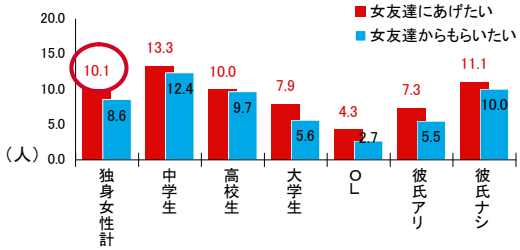


	告白したい男性	彼氏	女友達	男友達	父親	兄弟	母親	姉妹	義理チョコ対象の男性	その他	特にいない
■独身女性計	1.1	1.0	8.6	3.5	1.0	1.1	1.0	1.3	4.8	3.5	1.3
中学生	1.1	1.0	12.4	3.3	1.0	1.1	1.0	1.4	4.9	3.0	1.5
高校生	1.1	1.0	9.7	3.6	1.0	1.0	1.0	1.2	4.8	0.0	1.2
大学生	1.0	1.0	5.6	3.5	1.0	1.0	1.0	1.1	4.3	0.0	1.1
OL	1.0	1.0	2.7	3.0	0.0	0.0	1.0	1.2	5.3	5.0	0.0
彼氏アリ	1.2	1.0	5.5	3.8	1.0	2.0	1.0	1.4	5.1	4.3	1.2
彼氏ナシ	1.1	0.0	10.0	3.3	1.0	1.0	1.0	1.2	4.5	1.0	1.3

●対象者別もらいたい総人数



●女友達にあげて・もらう「なでしこチョコ」



今年 2012

友チョコルール　価格は300円～400円代のプチプライス。

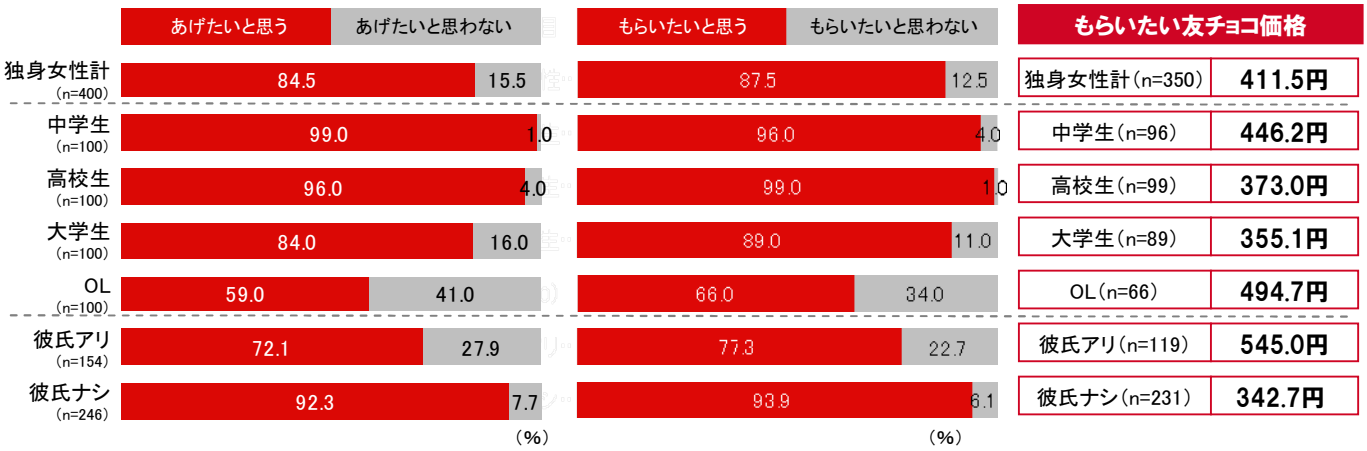
バレンタインデーにあげたい・もらいたい友チョコ　価格はプチプラがお約束。

今年の友チョコは、「感謝の気持ちを伝える」傾向がより強く。

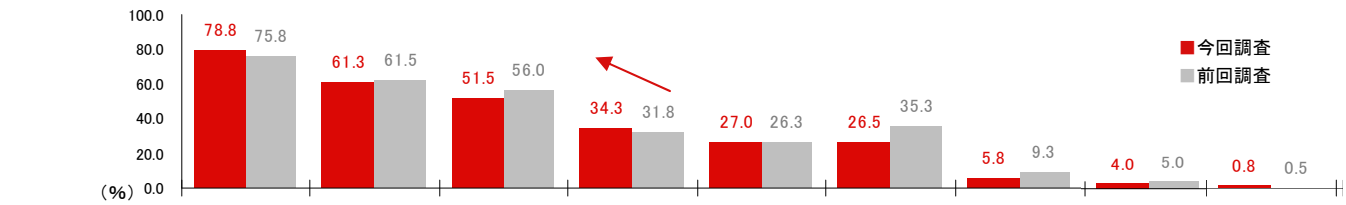
今年のバレンタインデー、10代・20代の独身女性に女の子同士の友チョコ交換について聞くと、中学生では99.0%がチョコをあげたいと思い、96.0%がチョコをもらいたいと思っています。高校生ではあげたい96.0%、もらいたい99.0%となっています。また、もらいたい友チョコの価格は、中学生が平均で446.2円、高校生が373.0円となり、中学生の方が単価が高めですが、自分があげる友チョコ価格（中学生486.6円　高校生319.2円　グラフ14参照）とほぼ同額。お互いの負担とならないプチプライスが友チョコルールとなっているようです［グラフ18］。市販のチョコをベースに、アラザン/トッピングシュガー/チョコレートペンでデコり、簡単にラッピングした場合、ひとつの単価はおよそ300～400円程度です。

また、女子同士で友チョコを贈り合うことのメリットを聞くと、「友達と盛り上がれる」（78.8%）、「友達との友情を深めることができる」（61.3%）、「おいしいチョコを食べることができる」（51.5%）とトップ3は前回調査と同じですが、今回は前回4位の「思い出作りに役立つ」（26.5%）にかわり、「感謝の気持ちなどふだん言えない気持ちが伝えられる」（34.3%）が5位から4位に浮上しています［グラフ19］。

グラフ18）今年（2012年）のバレンタインで女友達にチョコをあげたい・もらいたい　もらいたい友チョコ価格



グラフ19）女友達同士で友チョコを贈り合うメリット



	友達と盛り上がれる	友達との友情を深めることができる	おいしいチョコを食べることができる	感謝の気持ちなどふだん言えない気持ちが伝えられる	バレンタインデーに彼氏がいなくても楽しく過ごせる	思い出づくりに役立つ	新しい友達を作ることができる	特にメリットはないと思う	その他
■独身女性計（n=400）	78.8	61.3	51.5	34.3	27.0	26.5	5.8	4.0	0.8
中学生（n=100）	84.0	78.0	49.0	33.0	24.0	37.0	14.0	3.0	1.0
高校生（n=100）	83.0	64.0	59.0	36.0	32.0	39.0	7.0	1.0	0.0
大学生（n=100）	82.0	64.0	56.0	39.0	32.0	20.0	1.0	2.0	1.0
OL（n=100）	66.0	39.0	42.0	29.0	20.0	10.0	1.0	10.0	1.0
彼氏アリ（n=154）	69.5	55.2	47.4	39.0	18.8	20.1	1.9	6.5	1.9

Ⅲ.友チョコの実態 （ママに聞く）小学生のバレンタイン事情

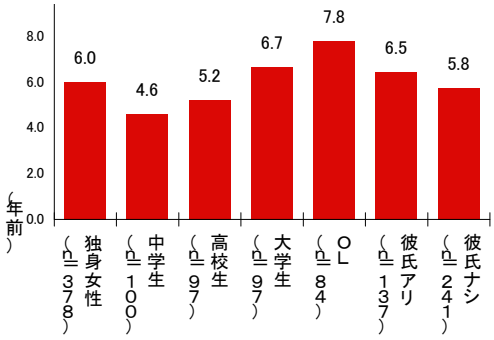
今年 2012

低年齢化する「友チョコ」習慣　小学生の間にも浸透中

今年のバレンタインデー、小学生の70.9％が「女の子の友達」にデコチョコをあげる予定。

ところで、「友チョコ」は一体いつから定着してきたのでしょうか?
友チョコ経験のある10代・20代の独身女性（378人）に聞くと、平均で「6年前」からとなり、中学生でも「4.6年前」という結果になりました[グラフ20]。つまり、友チョコは小学生にも広まっているというわけです。この実態を探るべく、長子が小学生の女の子の母親（148人）に、小学生のバレンタイン事情を聞いてみました。

グラフ20）友チョコはいつから始めたか



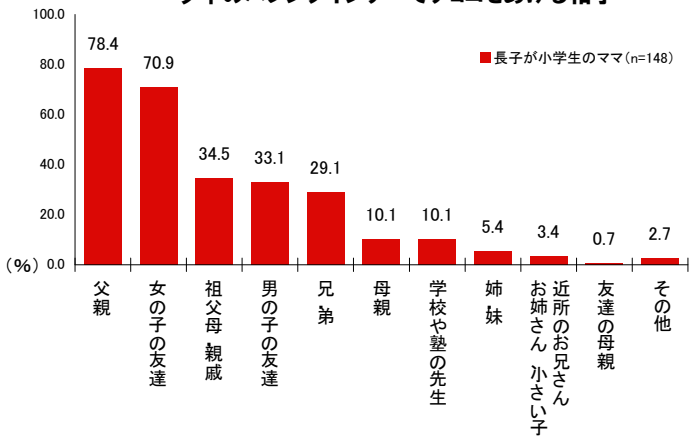
今年（2012年）のバレンタインに**小学生の娘さん**がチョコをあげる相手は「父親」（78.4%）がトップですが、第2位の「女の子の友達」（70.9%）が肉薄しています[グラフ21]。

女の子の友達にあげるチョコのタイプは、「販売してるチョコ菓子をそのまま」（3.8%）や「バレンタイン用のチョコレートを購入」（5.7%）など市販チョコをそのままあげることはほとんどなく、**ひと手間かけて自分らしくアレンジしたデコチョコ派（94.3%）が9割と、中高生以上に主流となっています**[グラフ22]。

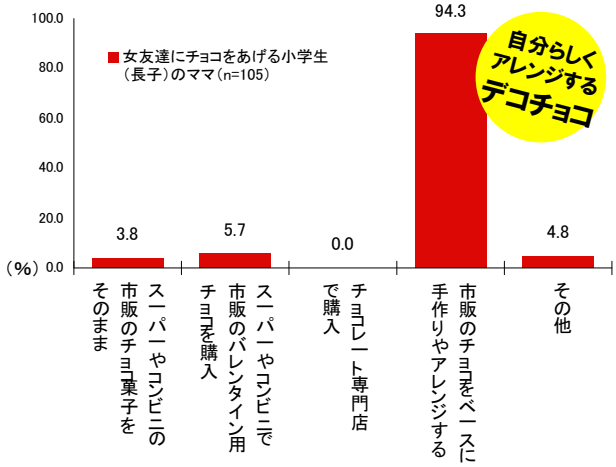
また、以前にも女の子のお友達にチョコをあげたことがあるかと聞くと、7割が「あると思う」（70.9%）と答え、友チョコがスタートした時期は平均で「2.5年前から」という結果になりました[グラフ23]。

バレンタインデーの主流となっている友チョコ習慣は、既に小学生の間にも浸透しています。

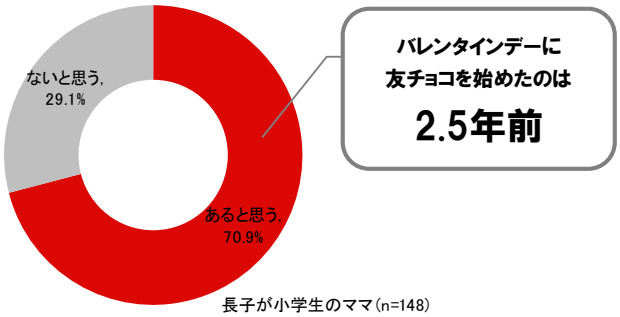
グラフ21）小学生のお子さんが 今年のバレンタインデーでチョコをあげる相手



グラフ22）小学生のお子さんが女の子の友達にあげる予定の バレンタイン・チョコのタイプ



グラフ23）小学生のお子さんは、女の子の友達に 以前にバレンタインデーでチョコをあげていたか



Ⅳ.親世代のバレンタイン事情［ママ編］

今年 2012

今年も「夫」(95.5%)への“ダーリンチョコ”がいちばん！

夫に伝えたい「感謝の気持ち」をデコチョコに託して
子どもと一緒に作って夫にあげる、家族の絆作りの日

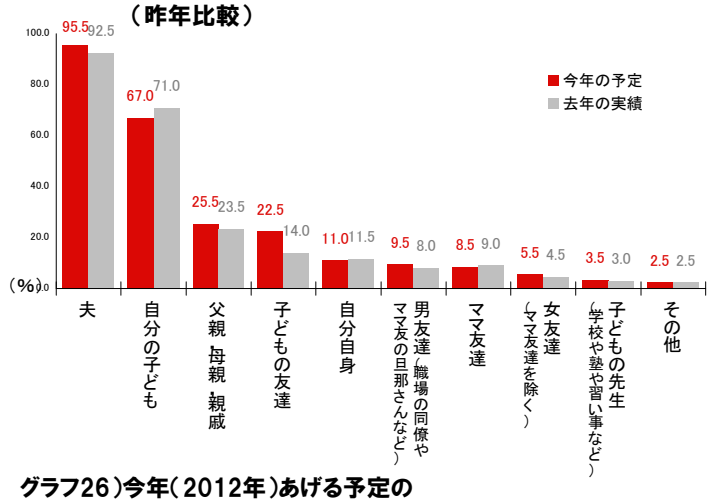
次に、小中学生の女の子を持つ母親200人(30代・40代各100人)を対象に、ママたち自身のバレンタインについて聞いてみました。

バレンタイン・チョコをあげる相手は、去年に引き続き「夫」(95.5%)がダントツ1位で、ほぼすべてのママたちがご主人にチョコをあげています[グラフ24]。夫へのチョコに込める気持ちは「ありがとう・感謝の気持ち」(83.2%)がトップで、以下「好きな気持ち・愛情」(32.5%)、「絆の大切さ・強さ」(22.0%)となっています[グラフ25]。

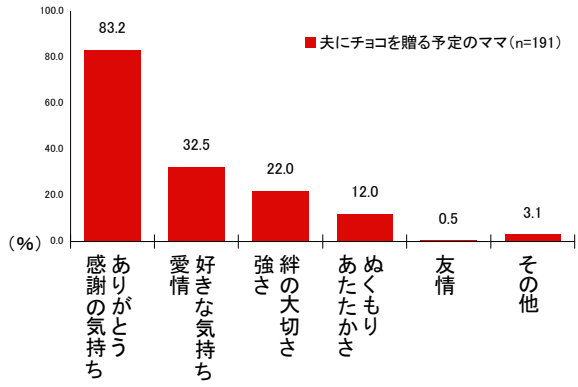
また、今年あげる予定のチョコのタイプは、スーパーやコンビニエンスストアなどで販売している市販のチョコ菓子などを自分らしくアレンジするデコチョコが約半数(49.5%)と最も多く、子どもたちだけでなくママたちにもデコチョコ文化が浸透しているようです[グラフ26]。

ママたちにも人気のデコチョコ作り。一緒に楽しみたい相手は、「子どもと」という意見が最も多く、材料を買いに行く(64.5%)のも、一緒にデコるのも(69.5%)、デコを相談するのも(61.5%)「子ども」がいちばんの相棒です。子ども世代の中学生も「母親と」が人気ですが、デコチョコ作りは「ひとりで」(43.0%)の意見も多く、「デコチョコ作りはできればひとりで」との乙女心が感じられます。デコチョコ出費はママのおサイフに援助してもらいつつ、デコチョコアレンジをママに教えてあげる、そんな仲良し母娘の光景が浮かびます[表27]。

グラフ24)今年(2012年)のバレンタインにチョコをあげる相手（昨年比較）



グラフ25)今年(2012年)のバレンタインに夫に贈るチョコに込めたい気持ち



グラフ26)今年(2012年)あげる予定のバレンタイン・チョコのタイプ

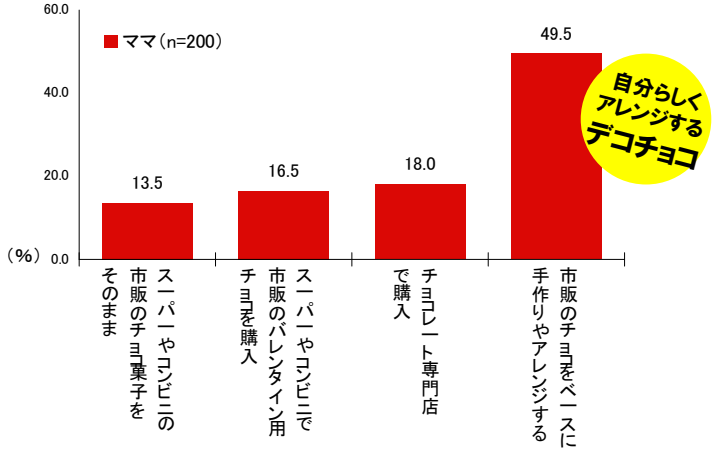


表27)デコチョコ作りの準備

■デコチョコの材料を一緒に買いに行きたい相手TOP3

ママ(n=200)	子どもと (64.5%)	ひとりで (12.5%)	ママ友達と (3.0%)
中学生(n=100)	母親と (54.0%)	ひとりで (27.0%)	女友達と (22.0%)

■デコチョコを一緒に作りたい相手TOP3

ママ(n=200)	子どもと (69.5%)	ひとりで (5.5%)	ママ友達と (1.5%)
中学生(n=100)	ひとりで (43.0%)	母親と (31.0%)	女友達と (17.0%)

■デコチョコアレンジを相談したい相手TOP3

ママ(n=200)	子どもと (61.5%)	ひとりで (11.0%)	ママ友達と (5.0%)
中学生(n=100)	母親と (41.0%)	ひとりで (28.0%)	女友達と (25.0%)

Ⅳ.親世代のバレンタイン事情［パパ編］

今年 2012

もらったチョコの平均は4個。
いちばんうれしいのは娘からの「パパチョコ」

妻からのダーリンチョコ（29.4％）より、娘からのパパチョコ（61.7％）の方が断然うれしい。

ママから感謝の気持ちのバレンタイン・チョコを受け取るパパ。彼らはバレンタインデーをどう捉えているのでしょうか。小中学生の女の子を持つ父親200人（30代・40代各100人）を対象に、パパたちのバレンタイン事情を聞いてみます。

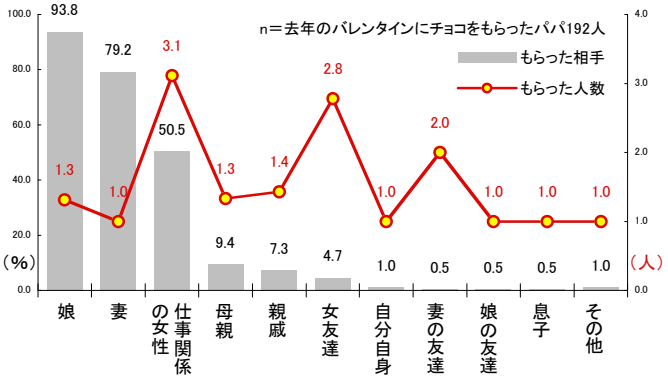
去年（2011年）のバレンタイン、ほとんどのパパがチョコを「もらった」（96.0%）と答え、その相手は「娘」（93.8%）か「妻」（79.2%）で、半数のパパが「仕事関係の女性」（50.5%）3.1人から社交辞令チョコを受け取っています［グラフ28］。

もらった数は平均で4.0個ですが、最大で32個ももらったモテパパもいます。

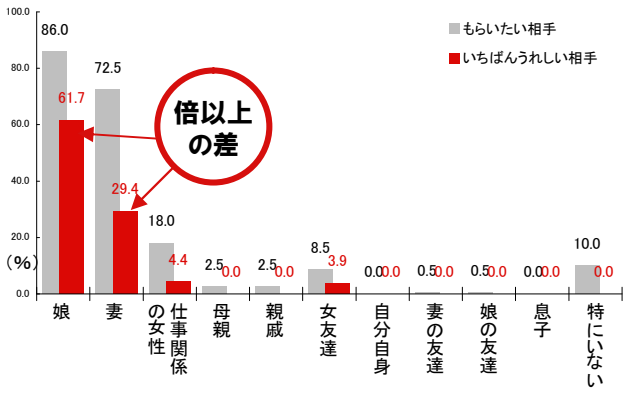
今年のバレンタイン、チョコをもらいたい相手は「娘」（86.0%）か「妻」（72.5%）ですが、もらっていちばんうれしい相手では「娘」（61.7%）と「妻」（29.4%）に大きな差があり、妻からの感謝の気持ちがこめられたダーリンチョコも、娘からのパパチョコの前では歯がたたないようです［グラフ29］。妻からのチョコと娘からのチョコのうれしさを比べると、「娘から」（75.0%）のチョコは「妻から」（25.0%）のチョコの3倍のうれしさがあるようです［グラフ30-①］。

バレンタインデーについてのパパの気持ちを聞くと、娘たちの友チョコブームに関しては歓迎モード（66.0%）ですが、自分以外の男性にチョコをあげることは「成長の証」（58.5%）と認める意見と「悲しい」（41.5%）が拮抗しています［グラフ30-②③］。また、男性が主役のバレンタインデーですが、パパは「家族の主役」（33.5%）よりも「盛り上げ役」（66.5%）の方がお望みのようです。ちなみに、家族以外からもらったチョコについて、ほとんどが「妻に隠さない」（84.5%）と答えており、娘からのチョコがいちばんうれしいものの、外でのモテぶりもアピールしたいようです［グラフ30-④⑤］。

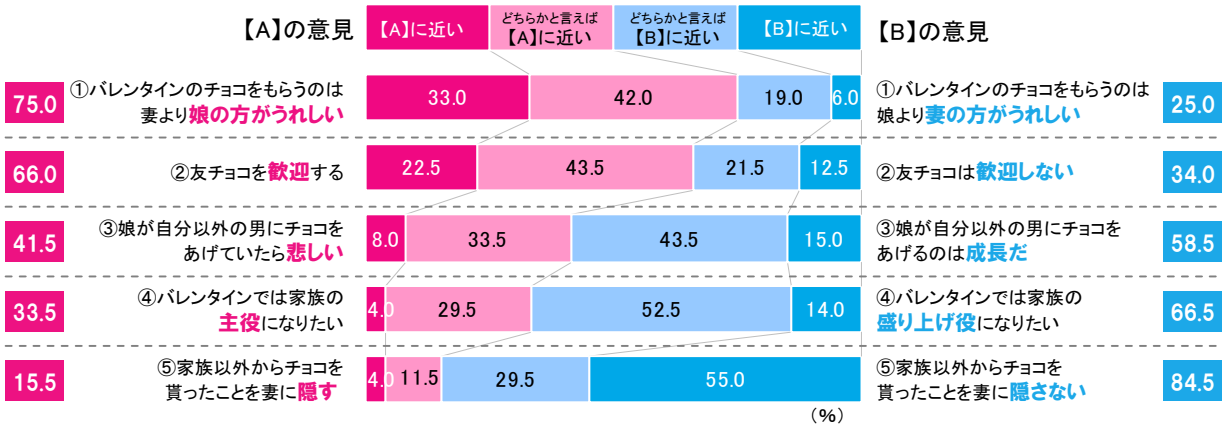
グラフ28）去年（2011年）のバレンタインデーに チョコをもらった相手と人数



グラフ29）今年（2012年）のバレンタインデーに チョコをもらいたい相手、いちばんうれしい相手



グラフ30）バレンタインデーに関する父親の意見



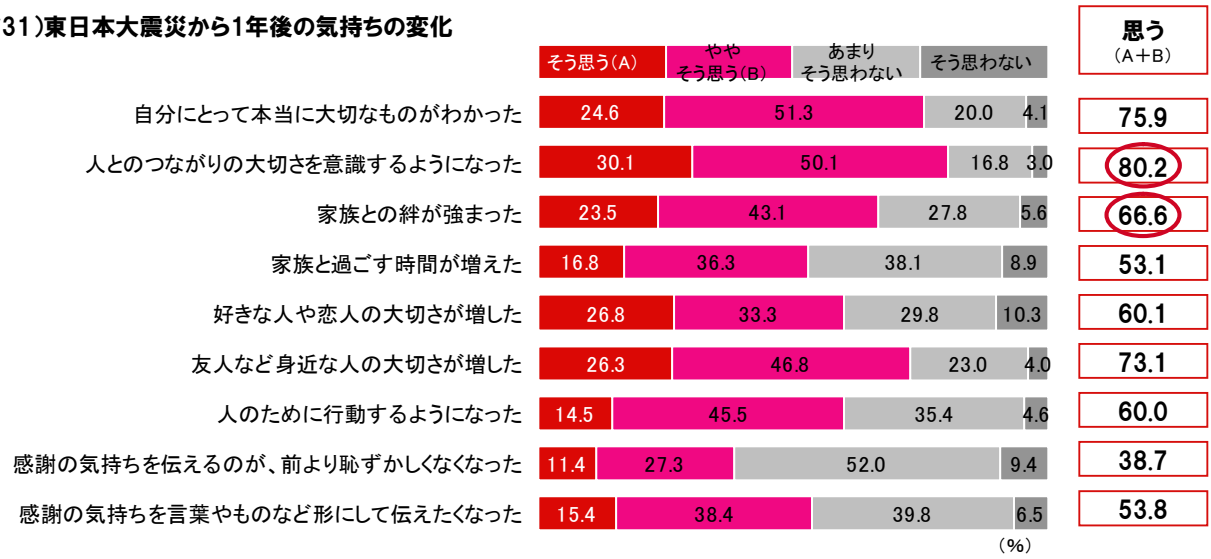
震災後、人のつながりの大切さを強く意識している日本人

子ども世代は「親」の大切さを、親世代は「子ども」の大切さを、それぞれが強く実感

東日本大震災発生から1年弱。調査対象全員にこの1年の気持ちの変化を聞くと、「人とのつながりを意識するようになった」（80.2%）、「自分にとって大切なものがわかった」（75.9%）と実感する人が多く、7割近くの人が「家族との絆が強まった」（66.6%）と答えています。感謝の気持ちを「以前より伝えるのが恥ずかしくなくなった」（38.7%）は4割弱ですが、「言葉やものなど形にして伝えたくなった」（53.8%）は5割を超え、シャイな日本人も、自分の気持ちを心だけでなく形にして伝えようとする意識が、震災を契機により強くなっているようです［グラフ31］。

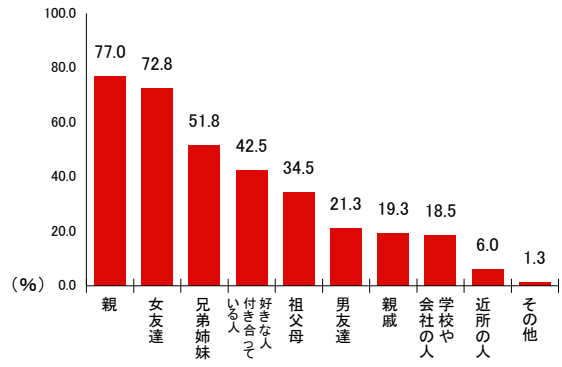
また、この1年で大切さが増した人を聞くと、独身世代は「親」（77.0%）、親世代は「子ども」（92.3%）という結果となり、家族の大切さをそれぞれが強く実感していることがわかりました［グラフ32］。

グラフ31）東日本大震災から1年後の気持ちの変化



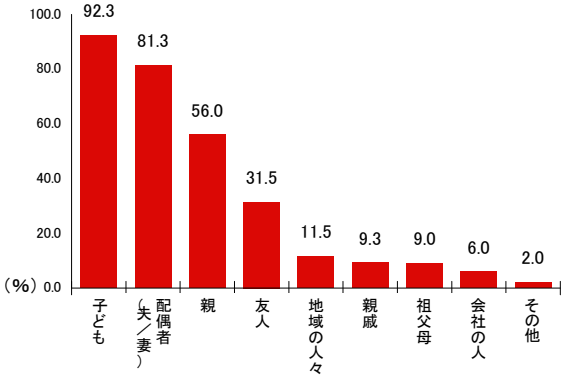
グラフ32）この1年で大切さが増した人

●独身女性



	親	女友達	兄弟姉妹	好きな人付き合っている人	祖父母	男友達	親戚	学校や会社の人	近所の人	その他
■独身女性（n=400）	77.0	72.8	51.8	42.5	34.5	21.3	19.3	18.5	6.0	1.3
中学生（n=100）	69.0	81.0	44.0	30.0	38.0	19.0	21.0	16.0	6.0	2.0
高校生（n=100）	74.0	76.0	45.0	23.0	33.0	18.0	21.0	22.0	8.0	0.0
大学生（n=100）	82.0	69.0	61.0	57.0	37.0	28.0	21.0	18.0	6.0	3.0
OL（n=100）	83.0	65.0	57.0	60.0	30.0	20.0	14.0	18.0	4.0	0.0

●父親・母親



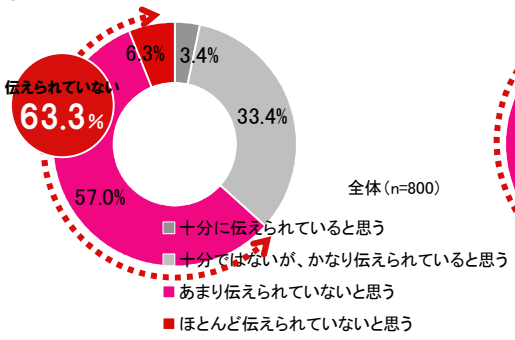
	子ども	配偶者（夫／妻）	親	友人	地域の人々	親戚	祖父母	会社の人	その他
■親世代（n=400）	92.3	81.3	56.0	31.5	11.5	9.3	9.0	6.0	2.0
母親（n=200）	93.5	80.0	64.0	39.0	14.5	10.5	10.5	6.0	1.5
父親（n=200）	91.0	82.5	48.0	24.0	8.5	8.0	7.5	6.0	2.5

今年のバレンタインデーは、感謝の気持ちをこめて家族とチョコを贈り合い

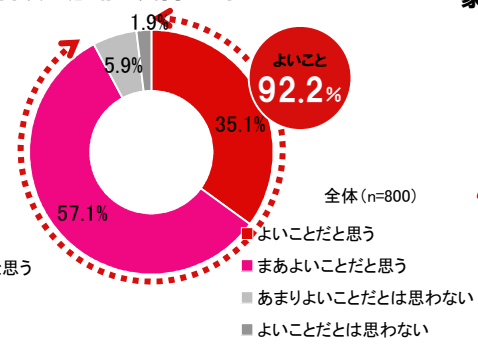
デコチョコは家族に感謝の気持ちを伝えるのに効果的

親子の大切さを実感している日本人ですが、実際、身近な人に感謝の気持ちを伝えられているかというと、「伝えられている」のは36.8%にすぎず、63.3%と大半の人が伝えられていないのが現状です[グラフ33]。そのせいか、バレンタインデーをきっかけに家族に感謝の気持ちを伝えるのは「よいこと」と92.2%が賛同しており[グラフ34]、約7割(70.9%)が今年のバレンタインデーに家族でチョコの「贈り合いをする」と答えています[グラフ35]。家族とチョコの贈り合いをする予定の人(567人)にその予算を聞くと、全体平均で815.7円となり、OL(1,291.9円)の金額の高さが目立ちます[グラフ36]。また、家族に贈りたいチョコ・もらいたいチョコは、共に「市販のチョコをアレンジした」デコチョコ(贈る63.9%　もらう53.8%)がいちばん人気で[グラフ37]、76.1%が「デコチョコは家族に想いを伝えるのに効果的」と考えています[グラフ38]。

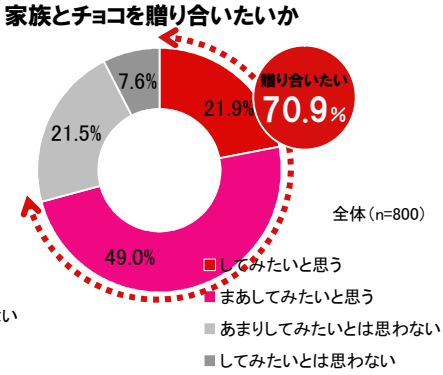
グラフ33)身近な人に日頃感謝の気持ちを伝えられているか



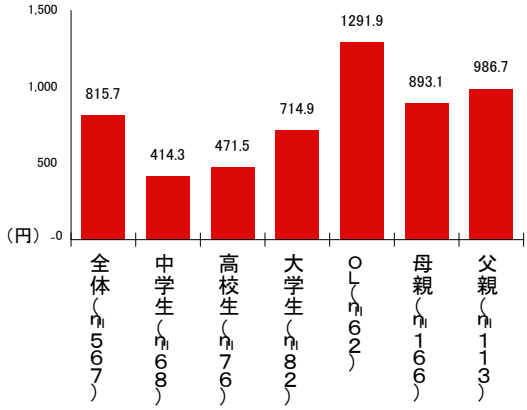
グラフ34)バレンタイン・チョコで、家族に日頃の感謝の気持ちを伝えること



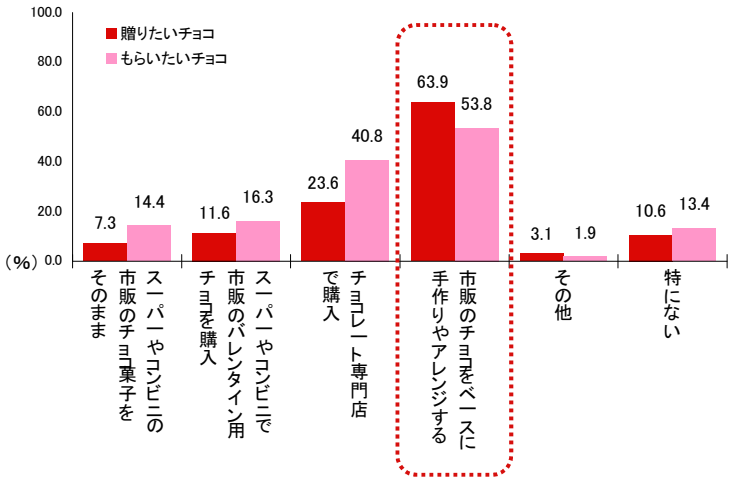
グラフ35)今年(2012年)のバレンタイン家族とチョコを贈り合いたいか



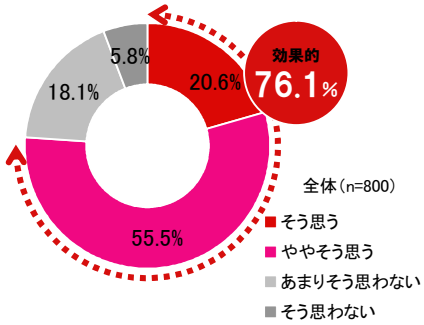
グラフ36)家族とのバレンタインにかけたい金額



グラフ37)家族に贈りたいチョコ・もらいたいチョコ



グラフ38)デコチョコは家族に想いを伝えるために効果的か



バレンタインデー未来予想　家族や友達への気持ちをカタチで伝える日へ

これからのバレンタインデーは、「家族や身近な人に感謝の気持ちを伝える日」へ

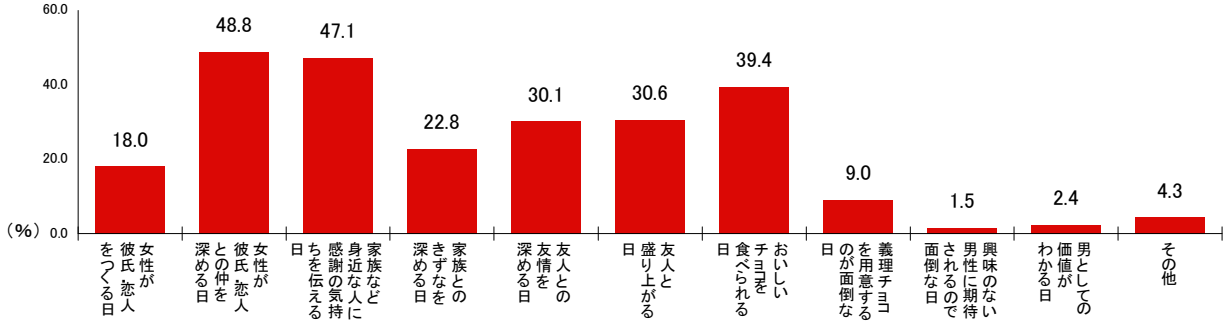
最後に、バレンタインデーの今後について聞いてみます。

今のバレンタインデーは、恋愛モードの「女性が彼氏・恋人との仲を深める日」（48.8%）がトップで、「家族など身近な人に感謝の気持ちを伝える日」（47.1%）は僅差で2位です。母親にとっては「家族など身近な人に感謝の気持ちを伝える日」ですが、中高生にとっては「友人と盛り上がり」「友人との友情を深め」「おいしいチョコを食べられる日」で、大学生には「女性が彼氏・恋人との仲を深める日」と捉えられています［グラフ39］。

しかし、今後バレンタインデーがどのような日になるかと聞くと、中高生では友情モードが高めですが、全体では「家族など身近な人に感謝の気持ちを伝える日」（48.3%）がトップで、「家族との絆を深める日」（今22.8%→これから35.0%）は12ポイントも高くなっています［グラフ40］。

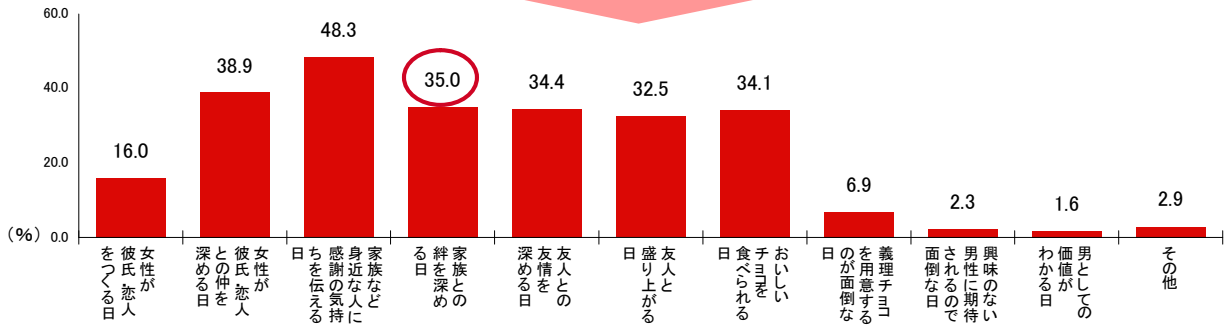
家族の絆と友達との友情。これからのバレンタインデーは、そんな気持ちのつながりをチョコというカタチに託して伝え合う、そんな記念日になっていくようです。

グラフ39）現在、バレンタインデーはどのような日か



	女性が彼氏・恋人をつくる日	女性が彼氏・恋人との仲を深める日	家族など身近な人に感謝の気持ちを伝える日	家族との絆を深める日	友人との友情を深める日	友人と盛り上がる日	おいしいチョコを食べられる日	義理チョコを用意するのが面倒な日	興味のない男性に期待されるので面倒な日	男としての価値がわかる日	その他
■全体（n=800）	18.0	48.8	47.1	22.8	30.1	30.6	39.4	9.0	1.5	2.4	4.3
中学生（n=100）	30.0	44.0	39.0	20.0	72.0	74.0	60.0	7.0	2.0	0.0	2.0
高校生（n=100）	15.0	49.0	49.0	23.0	61.0	68.0	66.0	11.0	1.0	0.0	2.0
大学生（n=100）	10.0	70.0	47.0	23.0	51.0	54.0	56.0	9.0	3.0	0.0	3.0
OL（n=100）	10.0	59.0	44.0	9.0	18.0	25.0	41.0	17.0	2.0	0.0	4.0
独身女性（n=400）	16.3	55.5	44.8	18.8	50.5	55.3	55.8	11.0	2.0	0.0	2.8
母親（n=200）	11.5	32.5	60.5	32.5	16.5	8.5	30.0	14.0	2.0	0.0	3.5
父親（n=200）	28.0	51.5	38.5	21.0	3.0	3.5	16.0	0.0	0.0	9.5	8.0

グラフ40）今後、バレンタインデーはどのような日になるか



	女性が彼氏・恋人をつくる日	女性が彼氏・恋人との仲を深める日	家族など身近な人に感謝の気持ちを伝える日	家族との絆を深める日	友人との友情を深める日	友人と盛り上がる日	おいしいチョコを食べられる日	義理チョコを用意するのが面倒な日	興味のない男性に期待されるので面倒な日	男としての価値がわかる日	その他
■全体（n=800）	16.0	38.9	48.3	35.0	34.4	32.5	34.1	6.9	2.3	1.6	2.9
中学生（n=100）	27.0	39.0	39.0	35.0	73.0	74.0	51.0	9.0	3.0	0.0	0.0
高校生（n=100）	23.0	42.0	38.0	32.0	57.0	70.0	52.0	9.0	5.0	0.0	1.0
大学生（n=100）	11.0	58.0	51.0	35.0	57.0	47.0	42.0	8.0	3.0	0.0	4.0
OL（n=100）	9.0	54.0	45.0	17.0	27.0	30.0	45.0	9.0	2.0	0.0	4.0
独身女性（n=400）	17.5	48.3	43.3	29.8	53.5	55.3	47.5	8.8	3.3	0.0	2.3
母親（n=200）	7.5	18.5	63.5	44.0	20.5	10.0	23.0	10.0	2.5	0.0	2.0
父親（n=200）	21.5	40.5	43.0	36.5	10.0	9.5	18.5	0.0	0.0	6.5	5.0

Ⅵ.本調査結果についての専門家からのコメント

帝塚山大学　心理福祉学部心理学科　谷口淳一 准教授（博士）による考察

【略歴】
大阪大学 人間科学部卒業、大阪大学大学院 人間科学研究科博士後期課程単位取得。
現在、帝塚山大学心理学部心理学科准教授。博士（人間科学）。社会心理学者。
著書に『図解よくわかる恋愛心理学』（共著）など。対人関係を円滑にしながら、自己の認識をポジティブにするような相互作用のあり方について研究している。

①バレンタインデーの変化と定着

バレンタインデーは女性が男性にチョコを渡して告白する日でした。それが数年前から中高生を中心に友達同士でチョコを交換する「友チョコ」が現れました。そして、今回の調査結果からもわかるように、「友チョコ」は現在では完全に定着したようです。少なくとも中高生にはバレンタインデーは「告白する日」ではなくて「友だちとチョコを交換する日」との認識が共有されているようです。

好きな男性への「告白」は自らと排他的で特別な関係になって欲しいという“お願い”を行うことです。チョコを渡した相手も自分のことを好きだったことがわかり、告白が成功すればいいのですが、もちろん失敗することもあります。告白された側もそれを断ったとすれば「罪悪感」を経験します。また、交際を望んでいないのにチョコを受け取ってしまえば相手に借りができたという「負債感」が残ります。

つまり、バレンタインデーは好きな相手に告白する「聖なる」日であると同時に、告白の失敗によって自らも相手も傷つけてしまうという不安や緊張感を内包するイベントでもあったわけです。

これに対して「友チョコ」や「ファミチョコ」は友達や家族といった普段から仲が良い人に贈るものであり、チョコをあげる方ももらう方も幸福な気持ちが確実に得られるイベントといえます。

②震災によって気づかされた日常のありがたさ

調査結果をみると今年のバレンタインデーには「感謝」の気持ちを伝えたいという意識が読み取れます。

それは昨年3月に起こった大震災という非日常的な出来事によって、日常的であることのありがたさに改めて気づかされたからでしょう。つまり、震災という非日常的な出来事が起こったことで、自分が1人で生きているのではなく、家族や友だちといった多くの人に支えられているのだという、日常的な生活の中であまり意識することもなかった「あたりまえ」に気づかされたわけです。そしてその「あたりまえ」に感謝の気持ちを伝えたいという意識が高まっているのだと思います。

感謝と言っても具体的な何かをしてもらったことに対して伝えたいのではなく、自分の家族や友達でいてくれることに幸せを感じ、それに対して「ありがとう」という気持ちを伝えたいという純粋な気持ちではないでしょうか。

昨年までは「友チョコ」や「ファミチョコ」が流行することで、「みんなしているから」という理由でチョコをあげていたということもあるかもしれません。しかし今年のバレンタインデーは多くの人が「感謝」の気持ちをチョコにのせて贈ろうとしているのだと思います。そして社会全体が「あたりまえ」であることの幸せを共有できていることで、チョコを受け取った人にその「感謝」の気持ちは今までより一層伝わると予想されます。

③親しい人に対する恥ずかしさ：チョコというハードルの低さ

しかし家族や友だちに感謝の気持ちを伝えたいといっても実はなかなか難しいことです。それほど親しくない人には「ありがとう」と簡単に言えるのに、親密で大切な人には恥ずかしくて素直に言えないものです。一般に他者と交わされるコミュニケーションの量は親しくなるにつれて増加するものの、相手との一体感を経験するほどに親密になると逆にコミュニケーション量は減少します。これは関係が安定しているためにコミュニケーションをする必要性を感じないからです。換言すれば、直接言わなくても相手はわかってくれていると思うわけです。ですから、あえて家族や友だちに「ありがとう」というのは照れくさいし勇気がいるのです。

ただし、バレンタインデーというイベントは行動を躊躇する背中を押してくれます。なんでもない日に贈り物をするとその意味について説明しなくてはいけなくなるのですが、バレンタインデーにチョコを渡すことで多くの言葉を用いなくても「感謝」の気持ちを伝えることができます。また、高価なチョコを渡すと、親密な相手だからといっても、「そんな高い物をもらって申し訳ない」という罪悪感や「お返しをしないといけない」という負債感を与えてしまいます。「友チョコ」や「ファミチョコ」として贈る価格が比較的に安価になっているのもそのようなネガティブな反応を回避しようという意識の反映だとも思えます。自らも無理をしない範囲で親しい人にチョコを渡すというのは、あくまでも日常生活の延長線上にバレンタインデーというイベントを置いていることの表れとも捉えられます。

④チョコをもらうことの意味：デコチョコが伝える意味

今回の調査結果で、単なる既製品ではなく、「デコチョコ」など何らかの手を加えたチョコを贈る人が多いという結果も興味深いです。そもそも贈り物はその物自体を相手に届けるだけでなく、その物に乗せられた贈り手の気持ちを届けるといえます。贈り物をもらって嬉しいのは、その物自体を手に入れた喜びもありますが、それ以上に相手がそのプレゼントを選ぶために苦労してくれたことがわかるから嬉しいのだと考えられます。例えば、旅行に行ったときに買うお土産も、最近では通販などで同じ物を買えたりするのですが、やはり旅先で買ってくることに意味があるわけです。

既製品を渡されるよりも、デコレーションやメッセージなどを加えた「デコチョコ」のように、工夫を凝らしたカワイイ「チョコ」をもらった方が「感謝」の気持ちはより伝わることをお互いにわかっているということでしょう。

⑤自分も楽しむ、一緒に楽しむバレンタイン

「友チョコ」の中心がデコチョコだという結果からは、チョコレートを作ることにも楽しみがあり、渡す相手だけでなく自分も楽しもうという意識が読み取れます。さらに「ママ」の調査結果からは、子供と一緒にチョコを作って楽しみたいという新たな一面も見られます。「感謝」の気持ちを伝えるというと何か重い感じがしますが、チョコを作ることの楽しみや、子どもと一緒に作業することの楽しみなど、「感謝」の気持ちを伝えるためにみんなで楽しみたいという意識が感じられます。

まさにバレンタインデーは「チョコ」を道具に身近な人との「絆」を確認できる日になっているといえます。
甘くてカワイイ「チョコ」の力を借りて日頃の感謝を伝えることができる、そんな温かな日になりつつあるのでしょう。

以上

［参考情報］いまどきのバレンタイン・チョコ分類

バレンタイン・チョコ　役割いろいろ、タイプもあれこれ

デコチョコは、友情や絆を伝えるコミュニケーション・チョコ

バレンタイン・チョコの種類を役割別に分類したのが右図です。女性が男性へ告白する従来型のバレンタインの役割を担うのが、①本命チョコや②告白チョコで、恋愛モードは高めです。
一方③義理チョコは、恋愛モードは低いものの、日ごろお世話になっている人への感謝の気持ち表すもので、この義理チョコの発展型として誕生したのが⑤友チョコや⑥ファミチョコで、コミュニケーションツールとしての側面が強く、友情・絆モードを重視するチョコです。

バレンタイン・チョコの役割分類

1	**本命チョコ**（女性から本命の彼氏へ）
2	**告白チョコ**（女性から告白したい男性へ）
3	**義理チョコ**（女性から友人や同僚へ）
4	**自分チョコ**（自分へのご褒美チョコ）
5	**友チョコ**（女性から女友達へ）
6	**ファミチョコ**（家族から家族へ）
7	**逆チョコ**（男性から女性へ）
8	**チャリチョコ**（寄付や支援のためのチョコ）

（江崎グリコ監修）